

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 月／Mon 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250544002101	科目番号／Course code	05440021
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A1日韓文化関係論／Modern Cultural Interactions between Japan and Korea		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	阪野 祐介		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	阪野 祐介		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	阪野 祐介		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟22／RoomA-22		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	sakanoy▲nagasaki-u.ac.jp（メールをする際は、▲を@に置き換えてください。）		
担当教員研究室/Office			
担当教員TEL/Tel	sakanoy▲nagasaki-u.ac.jp（メールをする際は、▲を@に置き換えてください。）		
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時：事前にメールで連絡してください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	この講義では、近くて遠い国ともいわれる韓国の社会や文化の特徴について、地理学的視点を加えつつ考察する。異文化理解として主に近現代の韓国の社会や文化について学ぶとともに、日本との共通点や差異点、関係性を解き明かしながら、日本の社会や文化について捉え直すことをめざすものでもある。そして、日韓両国間に横たわる葛藤の克服、持続可能な国家間関係構築、両国民の相互理解のさらなる進展の可能性を考える。		
授業到達目標/Course goals	①韓国の文化、社会の特徴を日韓比較の視点から分析し、説明することができる。（DP-1） ②日韓関係について歴史的・文化的観点から理解し、説明することができる。（DP-1）		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業参加度（リアクションペーパー等）50%＋学期末レポート50%		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	予習：各回で扱うテーマについて文献などを利用し予備知識を身に付けておく。（2h） 復習：配布資料や参考文献などを利用して授業内容の理解を深める。（2h）		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	授業中に適宜紹介する。		
受講要件（履修条件）/Prerequisites			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp		

備考/Remarks	各回リアクション・ペーパーの提出も求めます。授業内では、テーマに即した映画等の映像資料も活用します。
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	はじめに一近くて遠い国・韓国（対面）
第2回	韓国の地理的概要（対面）
第3回	風水思想と国土観（対面）
第4回	風水思想と都市景観（対面）
第5回	植民地支配と神社（対面）
第6回	植民地都市の生活空間（対面）
第7回	植民地ツーリズムの展開（対面）
第8回	植民地博覧会と帝国のまなざし（対面）
第9回	近代の温泉開発と軍隊・観光（対面）
第10回	南北問題と軍事独裁政権（対面）
第11回	88オリンピックと韓国社会の変化（対面）
第12回	アパート共和国・超競争社会（対面）
第13回	日本の中のコリアン社会の形成（対面）
第14回	日本の中のコリアン社会の暮らし（対面）
第15回	まとめ（対面）

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586032501	科目番号／Course code	05860325
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 16241_005		
授業科目名／Course title	●A1世界と日本の陶磁器文化交流／Ceramics Cultural Exchange between the World and Japan		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	野上 建紀／Takenori Nogami		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	野上 建紀／Takenori Nogami		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	野上 建紀／Takenori Nogami		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟22／RoomA-22		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nogami-takenori▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟11階 野上研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2919		
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時(メールにて要事前連絡)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	考古学の資料の中でも陶磁器は、最も多く出土するものの一つである。壊れやすくて、再利用が難しいことから、廃棄されやすく、かつ土中や水中にあって消失することなく残るからである。また、世界各地で生産され、それぞれの地域や時代を映す「鏡」となることから最も重要な資料の一つでもある。陶磁器を観察すれば各地域の文化や相互の影響関係も理解することができるのである。長崎県産をはじめとした日本の陶磁器も世界各地の需要に応えた時期があり、それは長崎から運ばれていた。陶磁器を通して、その背後にある文化交流を読み解き、日本と世界の関わりを理解できるようになることが授業の目的である。		
授業到達目標/Course goals	1.世界に輸出された長崎県をはじめとした日本の陶磁器について説明することができるようになる。 2.長崎県の波佐見焼などの日本の陶磁器が世界に与えた影響を説明することができるようになる。 3.世界情勢で長崎県の波佐見焼などの日本の陶磁器の輸出が発展した過程を説明することができるようになる。 4.日本(特に長崎)と海外との関わりを示す考古資料を説明することができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☒ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席状況 30点、最終試験(あるいは最終レポート) 70点の計100点 ただし、授業回によっては小課題を出す場合があり、その場合、最終試験の点数の一部とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】授業の最後に次回の内容について説明しますので、関連する資料を確認するようにしてください。(2h) 【復習】授業で配布された資料を整理し、授業の内容について理解を深めるようにしてください。(2h)		
キーワード/Keywords	陶磁器、文化交流、水中考古学		
教科書・教材・参考書/Materials	『陶磁考古学入門』(2021年 勁草書房)		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	授業内容に関連する長崎市内の施設・遺跡の見学を授業の予復習とする。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は基本的に対面で行いますが、一部の時間はオンラインで行います。
学生へのメッセージ/Message for students	質問や相談は気軽に研究室へ（事前にメールをください。）
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	野上 建紀／有田町歴史民俗資料館での勤務経験（25年間）／埋蔵文化財を中心とした文化財保護行政と資料館の学芸業務の経験を生かして、考古学と社会の関わりについても説明する。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	考古学入門（対面）
第2回	考古学入門（対面）
第3回	水中考古学入門（対面）
第4回	水中考古学入門（対面）
第5回	陶磁考古学（対面）
第6回	陶磁考古学（対面）
第7回	沈没船研究（対面）
第8回	沈没船研究（対面）
第9回	海外輸出された伊万里（１）（対面）
第10回	海外輸出された伊万里（１）（対面）
第11回	海外輸出された伊万里（２）（対面）
第12回	海外輸出された伊万里（２）（対面）
第13回	青のテーマ、海のシルクロード（対面）
第14回	青のテーマ、海のシルクロード（対面）
第15回	質疑応答（対面）
第16回	最終試験またはレポート（対面）

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 月／Mon 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586033301	科目番号／Course code	05860333
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 16281_005		
授業科目名／Course title	●A2生活・経済活動と法／Legal System on Life and Economic Affairs		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	朱 宝玲／ZHU BAOLING		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	朱 宝玲／ZHU BAOLING		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	朱 宝玲／ZHU BAOLING		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟24／RoomA-24		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	syu-hourei@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	Southeast Asia Research Building 312		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	If you have any questions, please make an appointment in advance by email.		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	Learning about how the law is involved in everything from familiar problems that arise in daily life and work to social problems.		
授業到達目標/Course goals	1. Understanding the relationship between daily life, economic activities, and the law 2. Training to think and act with legal thinking regarding problems that may arise in daily life or work.		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☒ 汎用的能力／Generic Competence ☒ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☒ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	Grades will be based on the results of reports normally submitted (90%). Students who actively participate in discussions during lectures will be given points (10%) according to their declaration. If the number of students taking the course is 50 or more, evaluation will be based on regular examinations (70%) and results such as regular reports (30%).		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	Preparation: Read lecture materials (2H) . Post-review: Remembering and reviewing the key points of the lecture (2H).		
キーワード/Keywords			
教科書・教材・参考書/Materials	有斐閣 “Pocket Six Laws” Latest Edition		
受講要件（履修条件）/Prerequisites	Lecture materials will be posted on LACS from the second time onwards. please print it out in advance and bring it with you. Lecture materials will be distributed only if not		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	In order to ensure equal educational opportunities for all students, Nagasaki University strives to remove societal barriers that may interfere with academic activities, and to provide reasonable accommodations as necessary and appropriate. If you have any questions or concerns regarding reasonable accommodations or other support in this class, please feel free to talk to the instructor (contact information above), or contact the Student Accessibility Office. Student Accessibility Office contact information (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2974
備考/Remarks	Lecture implementation method: Face-to-face
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	I would like to utilize my experience as a lawyer in international business to broaden the perspective of students and develop them into people who can not only comply with laws and regulations, but also participate in the creation of rules for international commercial transactions (Those who control the rules control the market) .
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
1st	Introduction
2nd	Torts and Law
3rd	Consumer damage and manufacturer liability and Law
4th	Traffic Accidents and Law
5th	Money lending and law
6th	Online trade and law
7th	Short-term employment and law
8th	Welfare benefits and law
9th	Aging society and law
10th	Elimination of social disparities and laws
11th	Crypto assets and law
12th	AI and law
13th	Family relations and law
14th	Inheritance and law
15th	Summary of class content

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 月／Mon 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586033301	科目番号／Course code	05860333
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 16281_005		
授業科目名／Course title	●A2生活・経済活動と法／Legal System on Life and Economic Affairs		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	朱 宝玲／ZHU BAOLING		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	朱 宝玲／ZHU BAOLING		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	朱 宝玲／ZHU BAOLING		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟24／RoomA-24		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	syu-horei▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する際は▲を@に置き換えてください）		
担当教員研究室/Office	片淵・東南アジア棟312		
担当教員TEL/Tel	syu-horei▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する際は▲を@に置き換えてください）		
担当教員オフィスアワー/Office hours	ご質問等がある場合、メールにて事前にアポを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	日常生活や仕事で生じうる身近な問題から社会問題まで、法はどのように関わっているのかについて学習すること		
授業到達目標/Course goals	1. 日常生活と経済活動と法の関係性を理解すること 2. 日常生活や仕事上で生じうるトラブルについて、法的思考で考え・行動できるように訓練すること		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☒ 汎用的能力／Generic Competence ☒ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☒ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	普段提出されたレポートの成果で、評定する（90％）。 講義中、積極的にディスカッションに参加する学生について、申告に応じて積極的に加点する（10％）。 履修者数が50名以上になる場合、定期試験（70％）と普段のレポートなどの成果（30％）で、評定する。		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前予習：講義資料を読むこと（2時間）。 事後復習：講義のポイントを思い出し復習すること（2時間）。		
キーワード/Keywords	民法、刑法、行政法、国際取引法、国際私法、法的三段論法		
教科書・教材・参考書/Materials	参考書：有斐閣『ポケット六法』最新版		
受講要件（履修条件）/Prerequisites	講義資料は、二回目からLACSに掲示します。LACSで掲示する場合、別途配布しませんので、各自で事前にプリントして持参してください。LACSに掲示しない場合のみ配布します。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	講義実施方法：対面
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	朱 宝玲／国際取引等における弁護士実務経験を活かし、学生の視野を広げ、法令順守のみではなく、国際商取引ルール作りに参加できるような人材育成を目指したい（ルールを制する者は市場を制する時代なので）。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	イントロダクション
第2回	不法行為と法
第3回	消費者保護と製造者責任と法
第4回	交通事故と法
第5回	金銭貸借と法
第6回	ネット売買と法
第7回	短期雇用と法
第8回	生活保護と法
第9回	高齢社会と法
第10回	社会格差解消と法
第11回	暗号資産と法
第12回	AIと法
第13回	家族関係と法
第14回	相続と法
第15回	講義の総括

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 月／Mon 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592005101	科目番号／Course code	05920051
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A2企業活動と社会／Corporate Activity and Society		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	林 麗桂／LIN Ligu		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	林 麗桂／LIN Ligu		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	林 麗桂／LIN Ligu		
科目分類／Course Category	ブラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟24／RoomA-24		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	lnty1210▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する▲を@に変更して送信してください）		
担当教員研究室/Office	経済学部本館531		
担当教員TEL/Tel	lnty1210▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する▲を@に変更して送信してください）		
担当教員オフィスアワー/Office hours	平日12～13時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	組織社会に生きるわれわれは、日々さまざまな組織と関わり、組織と相互に影響しあうダイナミックな関係にある。一方で、組織は、複雑な社会的・経済的環境に適応しつつ発展するために「努力」を重ねている。本講義では主に「企業」に焦点を当て、組織の基本的な概念と仕組みを学ぶとともに、その存続と発展に必要な理論と知識を習得し、われわれ人間が組織における「働きかけ」について理解・分析することを目的とする。		
授業到達目標/Course goals	1. 自ら学び、考え、主張し、行動することができるになる。 2. 分野・領域を超えて活用できる汎用可能な技能を身につけている。 3. 専門職業人や研究者としての基礎的知識・技能を習得し、高い倫理観を身につけている。 4. 地球環境と社会の多様性を理解している。 5. 主体性をもって他者と協働できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力／Generic Competence □倫理観／Ethics □多様性の理解／Understanding Diversity ■主体性／Autonomy □協働性／Cooperativeness ■考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	毎講義小テスト（50%）、中間テスト（25%）、最終テスト（25%）。60%以上の達成を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	予習：シラバスに基づき、各回の学習内容や関係事例について予習しておく。（2h） 復習：講義で提示した理論や事例を活用して、普段自分が参加している「組織」（学校、アルバイト先、ボランティア団体など）を振り返り、「私と組織」の関係について考えながら、毎講義の小テストを完成する。（2h）		
キーワード/Keywords	経営組織、共通目的、参加意欲、コミュニケーション、組織学習、イノベーション、リーダーシップ		
教科書・教材・参考書/Materials	教員より適宜資料配布を行う 参考書：『はじめての経営組織論』（高尾義明、有斐閣、2019）、 『経営管理』（塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男、有斐閣、2009）		
受講要件（履修条件）/Prerequisites	積極的にグループワーク・グループディスカッションに参加することが望ましい。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	原則対面で行う。
学生へのメッセージ/Message for students	本講義を通じて、個人の行動は組織の活動と成果にどのように影響し、またどのように影響されるかについて関心をもって受講されることを期待します。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	イントロダクション・グループ分け
第2回	組織の定義と構成要素 小テスト
第3回	組織の3つの成立条件と経営資源
第4回	経営資源と組織均衡理論 小テスト
第5回	貢献意欲とモチベーション理論①
第6回	貢献意欲とモチベーション理論②事例分析 小テスト
第7回	個人学習と組織学習①
第8回	個人学習と組織学習②事例分析 小テスト
第9回	コミュニケーションと組織構造①
第10回	コミュニケーションと組織構造② 小テスト
第11回	組織文化とリーダーシップ①
第12回	組織文化とリーダーシップ② 小テスト
第13回	イノベーションと知識創造①
第14回	イノベーションと知識創造② 小テスト
第15回	事例演習①
第16回	事例演習②

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592008301	科目番号／Course code	05920083
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A3がん細胞の不思議／Wonder of cancer cells		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	池田 裕明, 米田 光宏／Yoneda Mitsuhiro, 安井 潔／Yasui Kiyoshi, 益谷 美都子／Masutani Mitsuko		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	池田 裕明		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	池田 裕明, 米田 光宏／Yoneda Mitsuhiro, 安井 潔／Yasui Kiyoshi, 益谷 美都子／Masutani Mitsuko		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟12／RoomA-12		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hiked▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	医学部基礎研究棟5F 腫瘍医学教授室		
担当教員TEL/Tel	095-819-7079		
担当教員オフィスアワー/Office hours	9:00～18:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	がんは日本人の約2人に1人が罹患し、日本人の死因の約1/3を占める疾患です。しかしながら、近年、分子標的薬・放射線療法の進歩やがん免疫療法の登場により、治療可能な疾患となりつつあります。本科目では、がんの発生、進展の仕組みと共に、最近の治療法の進歩を学び、がんについて正しい理解と考察力を養うことを目指します。		
授業到達目標/Course goals	がんの発生、進展、治療法について知識を整理し、必要に応じて表現できるようになる。また、知識をもとに論理的、批判的な思考ができるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☒ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☒ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席10%・課題及び小テスト90%にて評価する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学修：授業内容について参考書やインターネット等を用いた関連情報の調査・学習(2時間) 事後学修：講義内容の振り返り、関連情報の調査(2時間)		
キーワード/Keywords	がん、遺伝子、腫瘍発生、腫瘍進展、腫瘍治療、がん免疫療法		
教科書・教材・参考書/Materials	参考書：ワインバーグ がんの生物学 (南江堂)		
受講要件(履修条件)/Prerequisites			
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp		
備考/Remarks			
学生へのメッセージ/Message for students			

実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	池田 裕明・米田光宏／医師としての実務経験を有している。／実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識,技能を講義,実習等により教授する。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回／9月30日(火)1限	がんの発生のしくみ／分子標的医学 益谷美都子（対面）
第2回／9月30日(火)2限	がんは遺伝子の変化で起きる病気：様々なゲノム異常／分子標的医学 益谷美都子（対面）
第3回／10月7日(火)1限	がんの進化／分子標的医学 益谷美都子（対面）
第4回／10月7日(火)2限	がん細胞の弱点をねらう：分子標的薬／分子標的医学 益谷美都子（対面）
第5回／10月14日(火)1限	アルコールや喫煙とがん／腫瘍医学 米田光宏（対面）
第6回／10月14日(火)2限	エピジェネティクス とがん／腫瘍医学 米田光宏（対面）
第7回／10月21日(火)1限	がんについてのプレゼンテーション（１）／腫瘍医学 米田光宏（対面）
第8回／10月21日(火)2限	がんについてのプレゼンテーション（２）、がん検診／腫瘍医学 米田光宏（対面）
第9回／10月28日(火)1限	がんの治療法、免疫とは（１）／腫瘍医学 安井潔（対面）
第10回／10月28日(火)2限	免疫とは（２）、がん免疫療法とは／腫瘍医学 安井潔（対面）
第11回／11月11日(火)1限	がん免疫療法（T細胞輸注療法を中心に）／腫瘍医学 安井潔（対面）
第12回／11月11日(火)2限	がん免疫療法（その他）／腫瘍医学 安井潔（対面）
第13回／11月18日(火)1限	がんの分子生物学（がんの発生）／腫瘍医学 池田裕明（対面）
第14回／11月18日(火)2限	がんの分子生物学（がんの進展）／腫瘍医学 池田裕明（対面）
第15回／11月25日(火)1限	がんの分子生物学（がんの治療）／腫瘍医学 池田裕明（対面）
第16回／11月25日(火)2限	振り返り・テスト／腫瘍医学 池田裕明（対面）

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592008501	科目番号／Course code	05920085
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A3がんと共に生きる／Life with cancer		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	永田 康浩／Nagata Yasuhiro, 林田 直美／Hayashida Naomi, 金高 賢悟／Kanetaka Kengo, 足立 智彦／Adati Tomohiko, 久芳 さやか／Kuba Sayaka, 東家 亮		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	永田 康浩／Nagata Yasuhiro		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	永田 康浩／Nagata Yasuhiro, 林田 直美／Hayashida Naomi, 金高 賢悟／Kanetaka Kengo, 足立 智彦／Adati Tomohiko, 久芳 さやか／Kuba Sayaka, 東家 亮		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟12／RoomA-12		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	ynagata1961▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	医歯薬学総合研究科 地域医療学		
担当教員TEL/Tel	095-819-7046		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜-金曜 9:00-17:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	・がんは我が国で最も多い死因であり2人に1人が罹患する疾患です。これからはその治療だけでなく共生に関する理解はますます重要となってくるはずです。このモジュールでは、「消化器がん」「乳がん」「がんの放射線治療」そして「がんとの共生」に焦点を当て、多岐にわたる側面からこのテーマを探究します。 ・まず、「消化器がん」と「乳がん」について、その病因や診断方法、治療法などを解説します。消化器がんや乳がんは、早期発見が治療成功の鍵となることから、スクリーニング方法や予防策についても分かりやすく解説します。また、患者や家族にとっての心理的影響やサポートの重要性にも触れ、総合的なアプローチについて理解してください。 ・さらに、治療法の一つである「放射線治療」についても分かりやすく解説します。がん治療における放射線の役割や効果、副作用について理解し、最新の技術や研究動向にも目を向けます。放射線治療の適応やリスク管理についても考察し、患者に最適な治療についても理解できるはずです。 ・そして、最後に「がんとの共生」について考えます。がんとの共生とは、がんという病気とどのように向き合い、生活していくかという問題です。患者や医療者、社会全体ががんどのように向き合うべきか、そしてがんによって人生がどのように変わるのかについて深く探究します。また、がんを克服した人々の体験談や支援活動にも触れ、希望と勇気を与える事例を共有します。 ・本授業では医学だけでなく、心理学、社会学、倫理学など様々な視点からがんに関する知識を総合的に理解する機会を提供します。がん治療や共生における最新の情報や課題について学び、がん患者やその家族、そして医療従事者としての自己成長につなげることを目指してください。		
授業到達目標/Course goals	・いかなる専門職に就いても活用できる多面的な思考力を身につける。 ・論点についてグループ討議によりグループの考え方をまとめることができる。 ・討議内容をまとめてプレゼンテーションすることができる。 ・他グループの発表に対して疑問点を質問することができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒B.多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives ☐C.技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills ☐D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐F.教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業参加度(60点)、レポート(40点)		

各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前(2時間)、事後(2時間) 各タームは4回の授業で構成され、タームによっては初回にテーマを設定し、2回目以降のグループディスカッションとプレゼンテーションに向けて情報収集を行う。
キーワード/Keywords	消化器がん、乳がん、甲状腺がん、放射線治療、緩和医療、がんとの共生
教科書・教材・参考書/Materials	特に指定なし
受講要件（履修条件）/Prerequisites	パソコンを持参のこと。 パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトがインストールされていること。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	https://www.med.nagasaki-u.ac.jp/cm/
学生へのメッセージ/Message for students	難しそうなテーマですがソフトなディスカッションで盛り上がりましょう。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	永田康浩／外科医師として40年の診療経験あり 金高賢悟／足立智彦、消化器外科医師として大学病院で診療に従事 久芳さやか／乳腺内分泌外科医師として大学病院で診療に従事 林田直美／乳腺内分泌外科医師として大学病院で診療に従事 東家 亮／放射線専門医として大学病院で診療に従事
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第 1回 (12/2、I)	がんと共に生きる イントロダクション 対面：永田康浩
第 2回 (12/2、II)	がんと共に生きる イントロダクション 対面：永田康浩
第 3回 (12/9、I)	消化器がんについて ミニレクチャー 対面：足立智彦
第 4回 (12/9、II)	消化器がんについて ミニレクチャー 対面：足立智彦
第 5回 (12/16、I)	消化器がんと共に生きる ミニレクチャー 対面：金高賢悟
第 6回 (12/16、II)	消化器がんと共に生きる ミニレクチャー 対面：金高賢悟
第 7回 (12/23、I)	乳がんの治療 ミニレクチャー 対面：久芳さやか
第 8回 (12/23、II)	乳がんの治療 ミニレクチャー 対面：久芳さやか
第 9回 (1/6、I)	甲状腺がんの治療 ミニレクチャー 対面：林田直美
第10回 (1/6、II)	甲状腺がんの治療 ミニレクチャー 対面：林田直美
第11回 (1/13、I)	がんの放射線治療 ミニレクチャー 対面：東家 亮

第12回（1/13、II）	がんの放射線治療 ミニレクチャー 対面：東家 亮
第13回（1/27、I）	がんの放射線治療 ミニレクチャー 対面：東家 亮
第14回（1/27、II）	がんの放射線治療 ミニレクチャー 対面：東家 亮
第15回（2/3、I）	がんとの共生 グループディスカッション、総括 対面：永田康浩

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592001101	科目番号／Course code	05920011
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A4老いと健康／Aging and Health		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	井口 茂／Inokuti Shigeru, 横尾 誠一／Seiichi Yokoo, 森内 剛史		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	井口 茂／Inokuti Shigeru		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	井口 茂／Inokuti Shigeru, 横尾 誠一／Seiichi Yokoo, 森内 剛史		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟33／RoomA-33		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	shigeru▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	保健学科3階 井口教員室		
担当教員TEL/Tel	井口 茂 095-819-7962 森内剛史 095-819-7996		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日 18:00～19:30		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	高齢者の加齢に伴う身体・心理的变化、環境への適応能力など生理的及び社会的変化を学び、社会的変化を高齢化が進む長崎の取り組みを織り交ぜながら学び、高齢者に対するケアのあり方について議論していく。長崎県の状況と将来像や様々な対応・対策を学修することで高齢者問題を学生自らの問題として理解していく。		
授業到達目標/Course goals	・高齢者の心身の変化を理解し、説明することができる。(①) ・高齢者の社会的背景を理解し、説明することができる。(①、⑩、B) ・高齢者に対するケアの現状を理解できるようになる。(①、③、⑩、C) ・高齢者とコミュニケーションを取ることができる。(⑥、⑧、D) ・長崎県の高齢者問題を整理し、フィールドワークに基づく課題についてプレゼンテーションすることができる。(③、⑤、⑨、A)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	筆記試験 80%, 予習と適切な自己表現 20%, 合計100% 評価担当は、科目責任者の井口茂が行う。 成績の発表は、準備が整い次第、学務情報システム「NU-Web」より連絡する。詳細な内容を知りたい場合は、オフィスアワー等を利用して個別に対応する。 成績に疑義が生じた場合は、学生の手引きに記載している正規の手続きをもって申し立てをすることができる。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	予習：各講義の資料をweb上に掲載するので、あらかじめ目を通して講義の内容及び流れを把握しておくこと。(2h) 復習：講義のノート及びweb上の資料により復習し、疑問点などをまとめること。(2h)		
キーワード/Keywords	高齢者、健康、ケア、介護保険、住民活動、長崎県		

教科書・教材・参考書/Materials	教科書・教材・参考書：特になし・必要に応じて資料を配付する
受講要件（履修条件）/Prerequisites	復習時間として週4時間以上を要する
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	対面で実施予定。（第5・6回はリアルタイムオンラインで実施）
学生へのメッセージ/Message for students	高齢者の問題・課題は、介護問題だけでなく社会に関わる多くの要因が絡んでいます。自分が目指す分野における関係性についても考えてください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	井口 茂/10年以上高齢者の理学療法及び認知症の地域包括のケアを行っている/現代社会の問題である高齢者社会の取り組みと高齢者の特徴を明らかにし、理学療法学の視点から問題点を指導する。/
授業計画詳細/Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容/Contents
1回：9/30 1限目	高齢者が抱える健康及び生活課題 （担当：井口）※対面で実施予定
2回：9/30 2限目	知っておこう！介護保険制度 （担当：井口）※対面で実施予定
3回：10/7 1限目	認知症とは （担当：森内）※対面で実施予定
4回：10/7 2限目	認知症を予防する （担当：森内）※対面で実施予定
5回：10/14 1限目	高齢者と家族（老老介護） （担当：横尾）※オンデマンドにて実施
6回：10/14 2限目	高齢者を介護するということ（地域支援） （担当：横尾）※オンデマンドにて実施
7回：10/21 1限目	介護予防の取り組み：介護に至る原因 （担当：井口）※対面で実施予定
8回：10/21 2限目	介護予防の取り組み：自助・互助の取り組み （担当：井口）※対面で実施予定
9回：10/28 1限目	認知症のリハビリテーション1 （担当：森内）※対面で実施予定
10回：10/28 2限目	認知症のリハビリテーション2 （担当：森内）※対面で実施予定
11回：11/11 1限目	高齢者体験1 （担当：森内）※対面で実施予定
12回：11/11 2限目	高齢者体験2 （担当：森内）※対面で実施予定
13回：11/18 1限目	地域包括ケアシステムについて （担当：井口）※対面で実施予定
14回：11/18 2限目	介護予防に関する事例検討 （担当：井口）※対面で実施予定
15回：11/25 1限目	試験 （担当：井口）※対面で実施予定

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592001301	科目番号／Course code	05920013
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A4障害体験と支援／Disability Experience and Support		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	東 登志夫／Higashi Toshio, 中尾 理恵子／Nakao Rieko, 澤井 詩織, 西 祐樹, 丸田 道雄		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	東 登志夫／Higashi Toshio		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	東 登志夫／Higashi Toshio, 中尾 理恵子／Nakao Rieko, 澤井 詩織, 西 祐樹, 丸田 道雄		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟33／RoomA-33		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	higashi-t▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	保健学科5階		
担当教員TEL/Tel	095-849-7994		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日 18:00-19:00 それ以外の時間を希望する場合はメールにて問い合わせてください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	各種障害の疑似体験等を通して障害を理解し、その支援の必要性を体感するとともに、具体的な最新の支援方法(作業療法, 理学療法, 保健)について学ぶ。		
授業到達目標/Course goals	・代表的な障害を挙げることができる① ・障害を持った方が抱えている生活障害を理解する① ・障害者を支援する各種制度の概要を理解する①③⑩ ・各種障害を支援する専門職の役割について学ぶ②④		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☒ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	プレゼンテーションでの発表内容(20%), 各体験終了後のレポート(80%)にて総合的に評価。 <評価担当者> 東 登志夫 <成績発表の方法> 学期ごとに準備が整い次第, 掲示板等で連絡し, 学務情報システム「NU-Web」より各自で確認できる。 <疑義に関して> 成績の詳細な内容を知りたい場合は、オフィスアワー等を利用して個別に対応する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習：各回のテーマについて, Web, 文献などで調べておくこと(2時間) 事後学習：各回の授業内容や体験内容, 討議内容等の概要を自分なりに整理し理解を深めること(2時間)		
キーワード/Keywords	障害, 高齢者, 支援, 作業療法, 理学療法, 看護, 保健師, 海外		
教科書・教材・参考書/Materials	配付資料		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	特になし
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式での実施を原則といたしますが、感染症の感染流行状況や、その他悪天候など対面形式での実施が困難な状況と判断した場合には、ZOOMによるオンライン形式で実施する場合もありますので予めご了承ください。授業の実施形式が変更する場合はLACSにて連絡いたします。
学生へのメッセージ/Message for students	本講義では、高齢者、視覚障害、片麻痺及び体車椅子の体験等を実際に体験し、障害を持つ方々への支援のあり方を一緒に考えます。興味がある方、是非受講してください。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	中尾 理恵子／長崎市での行政保健師勤務経験/公衆衛生行政に関する解説と地域の実状に合わせた取り組みを教授する。 東登志夫（科目責任者）／身体障害者福祉施設、介護保険関連施設、医療機関での作業療法の経験を元に教授する。 実習指導者／臨床実習指導者講習会の受講経験を持つ、実習先の作業療法士が現場経験を元に教授する。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	オリエンテーション、グループ分け （東）＜対面＞
第2回	各種障害の理解 （東）＜対面＞
第3回	障害体験（車いす） （東）＜対面＞
第4回	障害体験（車いす） グループ討議 （東） ＜対面＞
第5回	障害体験（片麻痺、視覚障害） （丸田）＜対面＞
第6回	障害体験（片麻痺、視覚障害） グループ討議 （丸田）＜対面＞
第7回	視覚障害者への支援 （中尾）＜対面＞
第8回	摂食・嚥下障害への支援 （中尾）＜対面＞
第9回	海外における障害者支援 （澤井）＜対面＞
第10回	海外における障害者支援 （澤井）＜対面＞
第11回	理学療法士による支援 （西）＜対面＞
第12回	理学療法士による支援 （西）＜対面＞
第13回	障害者支援の考え方① （東）＜対面＞

第14回	障害者支援の考え方② (東) <対面>
第15回	まとめ <対面>

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586004101	科目番号／Course code	05860041
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 11911_005		
授業科目名／Course title	●A5ビギナーのための有機化学／Organic Chemistry for Beginners		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	田中 正一／Tanaka Masakazu, 真木 俊英／Maki Toshihide, 上田 篤志／Ueda Atsushi		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	田中 正一／Tanaka Masakazu		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	田中 正一／Tanaka Masakazu, 真木 俊英／Maki Toshihide, 上田 篤志／Ueda Atsushi		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟25／RoomC-25		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	matanaka▲nagasaki-u.ac.jp (代表) (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	薬学部薬化学研究室3F (田中、上田)、薬学部5F (真木)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2423 (田中)、2465 (真木)、2425 (上田)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	毎週火曜日: 12:00～12:40 (田中、真木、上田)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	生命現象は有機化学反応が織りなすものであり、また、有機化合物はヒトの生活に欠かせない物質(薬、プラスチックなど)である。本講義では、有機化学的な観点から生物の営みや自然現象を理解できるための基礎的知識を習得する。		
授業到達目標/Course goals	1. 有機化合物と無機物質を区別できる。 2. 有機化学的な観点から、生物の営みや自然現象を簡単に説明できる。 3. 有機化学の基本的原理と実際の薬などへの応用例を挙げることが出来る。 4. 新聞・TV等での有機化学に関する話題を正しく理解し、説明できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☒ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業への貢献度・演習(40%)と試験(60%、中間試験、レポート・LACSを併用する)から総合的に判断して成績評価を行う。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学修: 教科書により予習を行う(2時間/回)。 事後学修: 教科書、LACS(あるいはプリント)、により復習を行うこと(2時間/回)。		
キーワード/Keywords	元素・炭化水素・官能基・触媒		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書: 米山正信/安藤 宏 著、「有機化学が好きになる(新装版)」、講談社Blue Backs.		
受講要件(履修条件) /Prerequisites	原則として全回出席を単位認定の要件とする。ただし、3回以上欠席した場合は、理由書を提出してもらい課題等を課すこともある。 教科書を必ず持参して受講すること。教科書がない場合は欠席として取り扱うこともある。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面で実施予定。
学生へのメッセージ/Message for students	授業で学習した部分を教科書・配布プリント等により確実に復習することが、この授業の内容を理解するために有用である。 また、有機化学に関連するニュース等をチェックしてほしい。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	田中 正一／国立衛生試験所（国立医薬品食品衛生研究所）厚生技官、PMD A医薬品名称委員会委員/実務経験を活かして、有機化合物（薬、プラスチックなど）の有機化学的な観点から生物の営みや自然現象を理解できるための基礎的知識を教授する。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	イントロダクション：身近な有機化合物 （田中）対面授業
第2回	有機化合物を調べる手順1 （田中）対面授業
第3回	有機化合物を調べる手順2 （田中）対面授業
第4回	炭素と水素からなる有機化合物1 （田中）対面授業
第5回	炭素と水素からなる有機化合物2 （田中）対面授業
第6回	炭素と水素からなる有機化合物3 （上田）対面授業
第7回	有機化合物の名前の付け方 （上田）対面授業
第8回	アルコール・アルデヒド・カルボン酸1、中間試験 （上田）対面授業
第9回	アルコール・アルデヒド・カルボン酸2 （上田）対面授業
第10回	アルコールやカルボン酸からできる化合物1 （上田）対面授業
第11回	アルコールやカルボン酸からできる化合物2 （真木）対面授業
第12回	分子の構造を調べる1 （真木）対面授業
第13回	分子の構造を調べる2 （真木）対面授業
第14回	触媒 （真木）対面授業
第15回	合成研究とは （真木）対面授業
第16回	定期試験、総合演習等 対面授業

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586025101	科目番号／Course code	05860251
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 11931_005		
授業科目名／Course title	●A5ビギナーのための生物学／Biology for Beginners		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	岩田 修永／Iwata Nobuhisa, 城谷 圭朗／Shirotani Keiro, 武田 弘資／TAKEDA Kosuke, 谷村 進／Tanimura Susumu, 八田 大典／Hatta Daisuke, 竹生田 淳／Takouda Jun		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	岩田 修永／Iwata Nobuhisa		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	岩田 修永／Iwata Nobuhisa, 城谷 圭朗／Shirotani Keiro, 武田 弘資／TAKEDA Kosuke, 谷村 進／Tanimura Susumu, 八田 大典／Hatta Daisuke, 竹生田 淳／Takouda Jun		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟25／RoomC-25		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	岩田 修永：iwata-n▲nagasaki-u.ac.jp 城谷 圭朗：keiroshiro▲nagasaki-u.ac.jp 武田 弘資：takeda-k▲nagasaki-u.ac.jp 谷村 進：tani1211▲nagasaki-u.ac.jp 竹生田 淳：j-tkd▲nagasaki-u.ac.jp 八田 大典：hattad▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	薬学部・ゲノム創薬学(岩田、城谷、八田)、薬学部・細胞制御学(武田、谷村、竹生田)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2435(岩田), 095-819-2436(城谷), 095-819-2417(武田), 095-819-2419(谷村), 095-819-2418(竹生田), 095-819-2437(八田)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月～金曜日 13時～17時(メールで要予約)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	細胞やその構成成分、細胞の機能と恒常性の維持、DNAや遺伝子の働き、酵素の働きなど、生物学の基礎やがんなどの病態メカニズムを学ぶ。さらに、遺伝子組換え技術をもとに開発された最先端医薬品(バイオ医薬品を含む)を例示し、現代社会における課題を抽出してその問題を解決するための演習を行い、自ら学び、考え、主張し行動改革できる能力を養う。与えられた課題に対して小グループで議論し、資料を作成して発表する。		
授業到達目標/Course goals	・ 遺伝子・酵素・細胞の機能を理解するための生物学の基礎を学び、具体的な働きについて説明できるようになる。 ・ 遺伝子と病気の関係について説明できるようになる。 ・ 遺伝子組換え技術やバイオ医薬品、組換え食品の知識を活用できるようになる。 ・ 適切な自己表現能力を身につけ、プレゼンテーションができるようになる。 ・ 教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす(全学モジュール共通目標) 以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける(全学モジュール共通目標) 全学共通DP(社会に貢献できる市民として求められる多様な基礎的知識)に対応。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	定期試験および内容理解確認小テスト（50点）＋ 授業中の課題に対する積極的な取り組み状況（プレゼン資料作成への取り組み、グループプレゼンテーション時の発表や質問の内容等）（50点）合計100点のうち60点以上を合格とする。 問題を正しく理解し、答えているか。必要なキーワードを用いているか。思考方法が正しいかで評価する。生物学の基礎的理解が基準となる。 ※講義形式がオンラインになった場合、評価方法は別途定める。	
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照	
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習（2h）： LACSにアクセスし、講義資料や参考書等に目を通すこと。 事後学習（2h）： 講義で理解できなかった箇所は、配布プリントや教科書、参考書を使って明らかにするとともに、教員に質問し早めに解決すること。	
キーワード/Keywords	遺伝子・酵素・細胞の機能、発がんのメカニズム、創薬研究、遺伝子組換え、遺伝子治療、バイオ医薬品	
教科書・教材・参考書/Materials	教材：プリントを配布するか、LACSにアップロードする 参考書・参考図書：はじめの一步のイラスト生化学・分子生物学(羊土社)など	
受講要件（履修条件）/Prerequisites	15回のうち6回以上の欠席は失格とする。	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考/Remarks	授業は対面形式で実施します。最初の回に授業計画を説明しますが、状況によって変更する場合もあります。 台風等不測の事態により全学的休講措置が取られた際は、土曜日に補講を行うことがあります。	
学生へのメッセージ/Message for students	本科目では、どのような薬を飲めば病気が治るのか、どのように使われるのか、といった実用上の知識を得ることを目標にしているではありません。薬が生体にどのように作用し、病気を治癒することができるのかを正しく理解するためには、生体のしくみや病気の原因などの基本的な知識が必要です。このモジュールでは、これらの知識をわかりやすく、そして正しく理解できるように工夫します。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y	
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	岩田 修永/博士研究員として国立研究開発法人理化学研究所、厚労省国立医薬品食品衛生研究所および米国立衛生研究所にて生化学・分子生物学分野の基礎研究を行なう実務経験/実務経験に基づいて細胞やその構成成分、細胞の機能と恒常性の維持、DNAや遺伝子の働き、酵素の働きなど、生物学の基礎やがんなどの病態メカニズムに関する講義を行う。/ 城谷 圭朗/博士研究員として国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、ミュンヘン大学にて、教員と大学法人長崎大学、福島県立医科大学、北海道大学にて生化学・分子生物学分野の基礎研究を行なう実務経験/実務経験に基づいて細胞やその構成成分、細胞の機能と恒常性の維持、DNAや遺伝子の働き、酵素の働きなど、生物学の基礎やがんなどの病態メカニズムに関する講義を行う。/	
授業計画詳細／Course Schedule		
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents	授業手法／
第1回，9/30，1校時	DNAや遺伝子の働き1 （対面）[岩田]	A
第2回，9/30，2校時	課題提示Ⅰとグループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備 （対面）[岩田、八田]	B
第3回，10/7，1校時	DNAや遺伝子の働き2 （対面）[岩田]	A
第4回，10/7，2校時	グループ内でプレゼンテーションと意見交換 （対面）[岩田、城谷、八田]	B
第5回，10/14，1校時	遺伝子組換え技術 （対面）[城谷]	A
第6回，10/14，2校時	グループ間プレゼンテーション，全体討論 （対面）[岩田、城谷、八田]	B
第7回，10/21，1校時	遺伝子組換え医薬品 （対面）[城谷]	A
第8回，10/21，2校時	課題提示Ⅱとグループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備 （対面）[城谷、八田]	B

第9回, 10/28, 1校時	グループ内でプレゼンテーションと意見交換 (対面) [岩田、八田]	B
第10回, 10/28, 2校時	グループ間プレゼンテーション, 全体討論 (対面) [岩田、城谷、八田]	B
第11回, 11/11, 1校時	細胞の増殖と生死の制御機構 (対面) [谷村]	A
第12回, 11/11, 2校時	課題提示IIIとグループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備 (対面) [武田・谷村・竹生田]	B
第13回, 11/18, 1校時	発がんのメカニズムと抗がん剤 (対面) [谷村]	A
第14回, 11/18, 2校時	課題提示IVとグループ内での意見交換とプレゼンテーションの準備 (対面) [武田・谷村・竹生田]	B
第15回, 11/25 1校時	グループ間プレゼンテーション, 全体討論 (対面) [武田・谷村・竹生田]	B
第16回, 11/25, 2校時	定期試験 (対面)	A

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586007801	科目番号／Course code	05860078
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 14131_005		
授業科目名／Course title	●A6環境・生活と化学／Chemistry in Environment and Life		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	山田 博俊／Yamada Hirotooshi, 小野寺 玄／Onodera Gen		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	山田 博俊／Yamada Hirotooshi		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	山田 博俊／Yamada Hirotooshi, 小野寺 玄／Onodera Gen		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟13／RoomA-13		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	h-yama▲nagasaki-u.ac.jp onodera▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	山田：総合教育研究棟807 小野寺：工学部1号館3階生物有機化学実験室8		
担当教員TEL/Tel	山田：095-819-2861 小野寺：095-819-2679		
担当教員オフィスアワー/Office hours	事前にメールで連絡してください		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	私たちの身の回りには無数の物質が存在するが、それらを構成する原子はわずか100数種類しかない。私たちを取り囲む環境や日常生活におけるさまざまな現象や物質の振る舞いは、一見複雑であるが、それらの多くは原子・分子の性質によって支配されている。これらの現象・物質を化学的観点から学習することで、現象の本質的理解を目指す。		
授業到達目標/Course goals	地球環境やエネルギー、化学製品や医薬品など、身の回りの現象・物質について原子・分子的観点から説明できる。 化学を通して、自ら学び、考え、主張し、行動することができる。 地球環境と社会の多様性を理解している。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	調査・プレゼンテーション50%, レポート30%, 講義への積極的参加20% 全回出席、発表とレポート提出を原則とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	予習)自分のグループが担当するテーマについて精査し、他の学生が理解できるような発表の準備を行う(2h)。 復習)新聞等で報道されている、学習した課題に関連する事象について、調査しまとめる(2h)。		
キーワード/Keywords	原子と分子, 環境・エネルギー, 有機生命化学, 医薬品合成		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書:「教養としての化学入門 第2版」, K. Waldron著, 竹内敬人訳, 化学同人 参考書:「実感する化学(上・下)」, 廣瀬千秋訳, NTS Lucy Pryde Eubanksほか"CHEMISTRY IN CONTEXT: APPLYING CHEMISTRY TO SOCIETY, FIFTH EDITION", McGraw Hill		

受講要件（履修条件）/Prerequisites	高校化学の履修は問わない
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	全講義を対面にて実施予定であるが、状況によりオンラインでの出席を認める場合がある。
学生へのメッセージ/Message for students	地球環境や生活の中には化学にまつわるものがありますが、近年は、真偽が定かでない情報が氾濫しています。情報に惑わされずに適切に判断し、行動する能力を身に着けることが重要です。本講義では、化学的・科学的見地から判断する力を養います。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	山田 博俊（第1回～8回）／産業技術総合研究所での勤務経験／様々なデータベースを活用して、化学を、よりリアルに感じられるように解説する。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	（対面：山田） 講義ガイダンス 第1章：科学的方法
第2回	【講義】（対面：山田） 第2章：原子，周期表，中性子，電子，光と原子の相互作用 第3章：すべてのもの，周期表，物質の分類，化合物と化学式，物質の変化
第3回	【学生によるプレゼン】（対面：山田） 第2章：原子，周期表，中性子，電子，光と原子の相互作用（山田） 第3章：すべてのもの，周期表，物質の分類，化合物と化学式，物質の変化
第4回	【講義】（対面：山田） 第4章：化学結合，化学結合，イオン結合，共有結合，金属結合 第5章：炭素，グラファイト／グラフェン／フラーレン，有機分子，有機官能基
第5回	【学生によるプレゼン】（対面：山田） 第4章：化学結合，化学結合，イオン結合，共有結合，金属結合 第5章：炭素，グラファイト／グラフェン／フラーレン，有機分子，有機官能基
第6回	【講義】（対面：山田） 第6章：気体，気体の性質，圧力，モル・温度・体積・圧力，気体の法則 第7章：化学反応，原子の計算，化学量論，化学反応
第7回	【学生によるプレゼン】（対面：山田） 第6章：気体，気体の性質，圧力，モル・温度・体積・圧力，気体の法則 第7章：化学反応，原子の計算，化学量論，化学反応
第8回	【講義】（対面：小野寺） 第8章：水，液体の水，相変化（氷／水／水蒸気） 第9章：塩と水溶液，他原子イオン，イオン結合の水和，濃度と電気分解，浸透と濃度勾配
第9回	【学生によるプレゼン】（対面：小野寺） 第8章：水，液体の水，相変化（氷／水／水蒸気） 第9章：塩と水溶液，他原子イオン，イオン結合の水和，濃度と電気分解，浸透と濃度勾配
第10回	【講義】（対面：小野寺） 第10章：pHと酸性雨，酸・塩基・pHスケール，酸性雨（硫黄酸化物，窒素酸化物），酸性雨の影響 第11章：原子力，原子核からのエネルギー，半減期，生体と放射能，
第11回	【学生によるプレゼン】（対面：小野寺） 第10章：pHと酸性雨，酸・塩基・pHスケール，酸性雨（硫黄酸化物，窒素酸化物），酸性雨の影響 第11章：原子力，原子核からのエネルギー，半減期，生体と放射能，
第12回	【講義】（対面：小野寺） 第12章：エネルギー・電力・気候変動，化石燃料，気候変動，水素エネルギー，太陽エネルギー 第13章：持続可能性とリサイクル，持続可能性とは，プラスチック，ポリマーの物理的性質，持続可能なプラスチック
第13回	【学生によるプレゼン】（対面：小野寺） 第12章：エネルギー・電力・気候変動，化石燃料，気候変動，水素エネルギー，太陽エネルギー 第13章：持続可能性とリサイクル，持続可能性とは，プラスチック，ポリマーの物理的性質，持続可能なプラスチック

第14回	【講義】（対面：小野寺） 第14章：食べ物の化学，タンパク質，遺伝子工学とGM0，炭水化物，脂肪
第15回	【学生によるプレゼン】（対面：小野寺） 第14章：食べ物の化学，タンパク質，遺伝子工学とGM0，炭水化物，脂肪

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 月／Mon 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586023701	科目番号／Course code	05860237
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 14121_005		
授業科目名／Course title	●A6身の回りの中の物理科学／Physical Science in Everyday Life		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	大嶺 聖／Omine Kiyoshi, 杉本 知史／Sugimoto Satoshi		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	大嶺 聖／Omine Kiyoshi		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	大嶺 聖／Omine Kiyoshi, 杉本 知史／Sugimoto Satoshi		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟33／RoomA-33		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	omine▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	工学部1号館3階306号室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2621		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日3校時。なお、事前にメールでアポイントを取って頂ければ常時0.K.です。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	受講する学生が親になった時に、子供に対して「物理なんかややこしいからやめとけ!」などの理科離れを助長するような助言をしないように、身近なものを対象に物理学の必要性やおもしろさを理解してもらうことを目標とする。		
授業到達目標/Course goals	身の回りの物理学に関わる現象に好奇心を持ち、なぜそのような現象が生じるのかについて、文系や理系に関わらず説明しようとする意欲を持てるようになること(②⑨)。 身の回りの生活に関わる、力やエネルギー、流れや波などに関する基本法則を学び、それらを利用した身の回りの現象を理解できること(①④)。 自然現象は、私たちの生命維持に不可欠な食料・資源の源になったり、時には甚大な災いをもたらすこともあることを認識できること(①③)。 科学的な思考法と方法論の基礎に触れ、身の回りの生活や先端科学技術と自然科学との関わりを理解し、お互いにこのことを議論できること(⑤⑧⑨)。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	講義への積極的参加(30%)、レポート課題およびグループ発表課題の評価(70%)の総合点で評価する。 ただし、課題の点数が平均6割以上を条件とする。出席日数が足りない場合は不可。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	予習：予め授業のテーマを自分で調べたうえで、授業にのぞむこと(2h) 復習：授業の内容を振り返り、疑問点をさらに調べるなど理解を確実にするように務めること(2h)		
キーワード/Keywords	速度、加速度、自然エネルギー、自然災害、斜面崩壊、地球温暖化、物質循環		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は使用しない。適宜、資料を配するとともに、参考書を紹介する。		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	特になし。ただし、高校在籍時に「物理」を選択していない学生を対象とした授業を行う。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	すべて対面で授業を行います。
学生へのメッセージ/Message for students	中学や高校の頃、物理特に力学が分からなかったり、苦手だった学生みなさんに受講してもらうことを前提に講義を準備しています。教養として、物理に対する抵抗を、自ら少しでも取り除いてもらえればと思います。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容／Contents
1回	受講ガイダンス，概説，物理科学の基礎 （対面）大嶺
2回	ガリレイの発見，ニュートンの力学，環境問題との関係 （対面）杉本
3回	速度・加速度・振り子について （対面）大嶺
4回	バネの動きとジェットコースターのメカニズム （対面）大嶺
5回	圧力と流体について （対面）大嶺
6回	摩擦力について （対面）大嶺
7回	建物の揺れを制御する：免震・制震・耐震 （対面）大嶺
8回	ペーパータワー（コンテスト） （対面）大嶺
9回	自然災害から身を守るために① （対面）大嶺
10回	自然災害から身を守るために② （対面）大嶺
11回	構造物の安定：軟弱地盤，補強，リサイクル材 （対面）大嶺
12回	最強の橋を作れ（コンテスト） （対面）大嶺
13回	森・川・海における物質循環と人との関わり：グループ討議 （対面）大嶺
14回	地球温暖化と地盤環境問題 （対面）水野
15回	再生可能エネルギーと地域の課題：グループ討議・発表 （対面）大嶺

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 2, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586008101	科目番号／Course code	05860081
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 12931_005		
授業科目名／Course title	●A7地球温暖化を考える／Introduction to Global Warming		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	和達 容子／Wadachi Yoko, 河本 和明／Kawamoto Kazuaki, 小山 光彦／Koyama Mitsuhiko, 高尾 雄二／Takao Yuji		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	和達 容子／Wadachi Yoko		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	和達 容子／Wadachi Yoko, 河本 和明／Kawamoto Kazuaki, 小山 光彦／Koyama Mitsuhiko, 高尾 雄二／Takao Yuji		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育B棟34／RoomB-34		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	ywadachi▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	河本(環231-2), 高尾(環323), 小山(環228), 和達(環434)		
担当教員TEL/Tel	和達 (095-819-2729)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	和達 火曜日14:30～15:30		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	温室効果に伴う気象および気候の変化を学ぶ。また、関連する国際条約の成立過程や内容について学び、国家間の立場の違いや国際社会への影響について考える。さらに、化石燃料の燃焼に伴い発生する大気汚染やエネルギー問題の現状、地球温暖化の生態系への影響やバイオマス利活用等を学ぶ。これらによって、地球温暖化の防止が技術的かつ国際的に複雑な問題であることを理解し、改善のための手法を提案し、予想される困難を考える。		
授業到達目標/Course goals	・地球温暖化のメカニズムや主要因を説明でき、他人と議論し意見交換ができるようになる。(1,3,4,9) ・将来および現在のエネルギー問題の概要を理解し定見交換ができるようになる。(1,5,9) ・地球温暖化の生態系への影響やバイオマス利活用等について理解できるようになる。(1,5,9) ・国際的な取り組みの概要を説明できるようになる。(1,4,5,7,10)		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力/Generic Competence ☐ 倫理観/Ethics ☒ 多様性の理解/Understanding Diversity ☒ 主体性/Autonomy ☐ 協働性/Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力/Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心/Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	予習も含めて授業への積極的な参加(20点)、期末試験(80点) 班による活動を中心とした授業形式が含まれるため休みがちまたは予習をさぼりがちですと班員に多大な迷惑が生じることをご留意ください。欠席と未予習に対しては厳しい評価をします。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習：シラバスに記載された各回の題材について基礎知識を得て、疑問点を整理しておく。(2h) 事後学習：扱った題材の内容、関連する専門用語・キーワードを十分に説明できるよう復習する。(2h)		
キーワード/Keywords	温室効果、地球温暖化、化石燃料、炭素固定、国際交渉		
教科書・教材・参考書/Materials	特に指定はなし。予習時に各自で調べる。必要があれば資料配布する。		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	LACSを使って予習課題の確認。レポート提出などの作業もあり得る。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	原則として対面形式で実施します。状況によって変更する回もあり得ますので、その場合はLACSで連絡します。
学生へのメッセージ/Message for students	講義スケジュールについては第1回の講義で説明します。 班行動や宿題があります。欠席については厳しい評価をします。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	オリエンテーション（概要と進め方等の諸注意），地球大気の諸特性 （河本）対面授業
第2回	気候を決める仕組み （河本）対面授業
第3回	気候変動の要因 （河本）対面授業
第4回	将来の気候 （河本）対面授業
第5回	閉じた地球と化石燃料 （高尾）対面授業
第6回	燃焼と大気汚染 （高尾）対面授業
第7回	さまざまな発電方式の比較 （高尾）対面授業
第8回	地球温暖化の生態系への影響 （小山）対面授業
第9回	バイオマス利活用技術 （小山）対面授業
第10回	生物による炭素固定技術 （小山）対面授業
第11回	地域資源の活用による脱炭素型地域づくり （小山）対面授業
第12回	国際社会と地球温暖化問題 （和達）対面授業
第13回	国際条約とその交渉 （和達）対面授業
第14回	国際的取り組みを促進する要因・阻害する要因 （和達）対面授業
第15回	地球温暖化対策と私たちの選択 （和達）対面授業

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 火／Tue 1
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586009301	科目番号／Course code	05860093
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 12911_005		
授業科目名／Course title	●A7生物多様性を考える／An Introduction to Biodiversity Studies		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	山口 典之／Yamaguchi Noriyuki, 岡田 二郎／Okada Jiro, 関 陽子／Seki Yoko		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	山口 典之／Yamaguchi Noriyuki		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	山口 典之／Yamaguchi Noriyuki, 岡田 二郎／Okada Jiro, 関 陽子／Seki Yoko		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育B棟34／RoomB-34		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	noriyuki▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	環境科学部 2 階 243 教室		
担当教員TEL/Tel	819-2751		
担当教員オフィスアワー/Office hours	空いている時間ならば随時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	・生物多様性に関する基礎知識を学ぶとともに、保全生物学における生物多様性の応用例を紹介し理解を深める。 ・生物多様性にかかわる文化的多様性と倫理の問題について理解を深める。 ・生物が多様であることの背景には環境に適応するための多様な生体機能が存在することについて理解を深める。		
授業到達目標/Course goals	(1) 保全生物学の視点から、生物多様性の意味が理解できるようになる。 (2) 政策上の視点から、生物多様性の意味が理解できるようになる。 (3) 生態学の視点から、生物多様性の意味が理解できるようになる。 (4) 生理学の視点から、生物多様性の意味が理解できるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☒ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐B.多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives ☐C.技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills ☒D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐F.教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	内容理解確認小論文、試験およびレポート(100%、ただし配分は教員によって同じではない)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	参考書等を用いて授業内容に関連のある部分について予備知識を身につけ、自分なりの問題意識を醸成した上で授業にのぞむこと(2hr)。 授業のなかで与えられた課題について、文献調査等を加味しながら、理解を確実にするように努めること(2hr)。		
キーワード/Keywords	生物多様性 生態系 環境思想 生体機能		

教科書・教材・参考書/Materials	テキストは特になし。 R. プリマック 著 「保全生物学のすすめ」 文一総合出版 樋口広芳編 「保全生物学入門」 東京大学出版会 鷺谷いづみ・矢原徹一「保全生態学入門」 東京大学出版会 吉田謙太郎 著 『生物多様性と生態系サービスの経済学』 昭和堂 Millennium Ecosystem Assessment (編), 横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会 (訳) (2007) 生態系サービスと人類の将来-国連ミレニアムエコシステム評価, オーム社. 小泉修ら編「動物の多様な生き方1-5巻」 共立出版
受講要件（履修条件）/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	全回対面を予定
学生へのメッセージ/Message for students	報道関係や書籍でも生物多様性について取り上げているものが多く見られます。目や耳にした時には、その内容を吟味することで、学習効果が更に上がります。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	遺伝的多様性：その成因と機能 (山口：対面)
第2回	種多様性：種の創出機構と維持機構 (山口：対面)
第3回	絶滅：環境要因、競争排除、生息地消失、外来種問題 (山口：対面)
第4回	生態系多様性：生態系の構造と複雑性、複数生態系のつながり (山口：対面)
第5回	生態系の機能とサービス、人間の福利との関係 (山口：対面)
第6回	文化的多様性としての生物多様性：「意味づけられた自然」について (関：対面)
第7回	生物と人とのかかわりー捕鯨・鯨食の歴史① (関：対面)
第8回	生物と人とのかかわりー捕鯨・鯨食の歴史② (関：対面)
第9回	〈環境倫理〉からの動物保護 (関：対面)
第10回	生物多様性のための《環境道德》とは (関：対面)
第11回	行動の多様性 (岡田：対面)
第12回	神経系の多様性 (岡田：対面)
第13回	感覚の多様性 (岡田：対面)
第14回	運動の多様性 (岡田：対面)
第15回	学習記憶の多様性 (岡田：対面)

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 2, 火／Tue 1
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592001501	科目番号／Course code	05920015
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A8人から見た水産業／Fishing Industry from Human Beings' Perspective		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	清水 健一／Shimizu Kenichi, 広瀬 美由紀／Miyuki Hirose, 藤井 陽介／Fujii Yosuke		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	清水 健一／Shimizu Kenichi		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	清水 健一／Shimizu Kenichi, 広瀬 美由紀／Miyuki Hirose, 藤井 陽介／Fujii Yosuke		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟43／RoomA-43		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	清水：kshimizu▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください) 広瀬：m-hirose▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください) 藤井：y.fujii▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	清水(水産学部本館3F) 広瀬(水産学部本館1F) 藤井(水産学部新々館)		
担当教員TEL/Tel	清水(2805) 広瀬(2817) 藤井(2802)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業後の在室時。事前の相談によっては時間帯の変更は可。また、研究室に来られた際に多忙であれば、その旨をお伝えします。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	私たちの社会が魚を利用する際には、漁船や漁具(ぎょぐ／魚を獲る道具)・漁法(ぎょほう／魚を獲る方法)という対象生物と水界の特性にじゅうぶん対応できる道具・能力・効率性の他に環境への配慮や安全性が欠かせません。また、漁獲という行為に注目すると、魚を流通させ経済的な価値を作る、という視点が欠かせません。こうしたことに注目しながら、主に、大きく時代をさかのぼることができる道具を作りそれを使いこなす能力(漁具や漁船海洋測器の歴史)、魚を獲る・海を使う・航海など行為に関する経済学や社会学としての見方の話題を提供するとともに、得られた知識を用いて身近な水域での問題について考えます。生物資源との共存が根底にある授業ですので、高等学校での生物・物理・公民などと関わりがあります。		
授業到達目標/Course goals	上記の授業の概要とそれによって関心を持った事について、 ・その歴史や技術的な背景を知り(基盤的理解、環境の意義、多様性の意義。本学DPの「分野・領域を越えて活用できる汎用可能な技能を身につけている」を重視。(①⑧⑩)、 ・現状を理解し(現代的な話題を取り入れる。本学DPの地球環境と社会の多様性を理解している)を重視。(②③⑫)、 ・その将来を考えることができるようになる(自主的探求、批判的思考、日本語力。本学DPの「地域社会および将来世代に貢献するグローバルな視点を身につけている」を重視。(①③⑧⑪⑫)、ことを到達目標としています。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力／Generic Competence □倫理観／Ethics □多様性の理解／Understanding Diversity ■主体性／Autonomy □協働性／Cooperativeness □考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ■国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ■C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills □D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	定期試験は行わず、次のことをもとにして成績を評価します。 ・アクティブラーニングに関する成果（30%）と課題レポート（70%）に取り組む姿勢＜清水＞。 ・各回の積極的な参加の様子とレポートから総合的に評価＜広瀬、藤井＞。 3人の教員が担当するパートごとの成績を決めます。 つぎに、これらをもとにしてこの授業としての成績を成績評価ガイドラインに沿って求めます。 ですから、3人の教員それぞれの担当パートごとに合格できる成績を得るよう、努力してください。
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	必要に応じて案内しますが、事前学習（予習に2h）は、授業内容に関する情報を集めること（知っておくことを増やす）のほかに、例えば指示されたレポートなど講義時間以外に対応する必要があることについて関連情報を集め正しくそれらを読み取る（理解し問題となることを見つける）ことなども、次回につながる勉強に該当します。事後学習（復習に2h）については、学習したことに関するレポートを指示されたらそれをやり遂げること、そうしたレポートの指示がない場合は、学修内容を整理して内容の理解ができているかどうかを確認することなどが該当します。
キーワード/Keywords	漁具・漁法、人とその社会、水産業（漁業）、道具と技術、船と航海、漁船漁業、資源（水棲生物）と環境、食料問題、持続的生産
教科書・教材・参考書/Materials	定めません。参考になる書籍などは必要に応じて授業中に紹介します。教材は必要に応じて印刷物を配ることがあります。
受講要件（履修条件）/Prerequisites	次の4点を重視してください。 a)講義に積極的に参加する意志があること。 b)出された課題に真摯に取り組むこと。 c)授業で得た「気づき」を実社会で応用できるようにしようと考えること。 d)それを学修成果にあらわすこと。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式を基本といたしますが、状況に応じて、対面方式とリアルタイム オンライン形式の併用で実施いたします。このことを含んで、授業の実施方針や 計画については初回の授業でお伝えいたします。また、授業にオンライン方式を取り入れる際は、必要に応じてLACSを介してお伝えすることもあります。
学生へのメッセージ/Message for students	漁業協同組合、漁業者、水産業、漁船、漁業の対象となる生物、資源管理型漁業、海洋生物資源と私たちの共生関係（例えば、魚食、海に生きる暮らしなど、切り口は以外とたくさんあります）などに関する情報に目を通したり書籍を読んでおくことが役に立ちます。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	清水 健一／附属練習船での航海士経験／航海計器や船舶に関連した法規などを写真や自身の経験も交えながら具体的に解説します。 広瀬美由紀／水産研究所勤務経験／水産研究所勤務経験を持つ教員が世界と日本の水産音響技術の現状について解説します。 藤井陽介／千葉県庁勤務経験／行政職の経験を持つ教員が水産行にかかわる地域の実態について解説します。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	この授業で学ぶことと学び方の説明 授業の方針、学び方や注目すべき事を知ることができます。 第5回までの「学生の思考を活性化させるための授業手法」については授業中に伝えます。 航海とは何か、航海に注目して、海を渡る困難とそれを克服してきた技術の発達過程を知り、考えることができるようになります。 授業担当者・授業実施方法：清水健一・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第2回	航海計器の歴史と技術の発達 航海計器の種類とその原理を知ること、その技術の発展過程を知り考えることができるようになります。 授業担当者・授業実施方法：清水健一・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第3回	船・造船の歴史と技術の発達 船とは何か、造船の略史、造船、船舶構造などに関わる技術の歩み、を知ることができます。 授業担当者・授業実施方法：清水健一・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）

第4回	海事法規の概要 海事に関わる法規（法律）を知ること、安全・安心で環境に配慮した航海、漁業をいかにこなすのかを知ることができます。 授業担当者・授業実施方法：清水健一・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第5回	漁船漁業発達の歴史 船舶のうち、水産資源を獲るための船に注目します。漁船漁業とは何か、単に航行技術の展開だけではなく生物特性を加味しなければ理解できないとの観点からの発展過程の評価を知り、これを自ら考えることができるようになります。 授業担当者・授業実施方法：清水健一・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第6回	この回から第10回までの「学生の思考を活性化させるための授業手法」については、授業中に伝えます。 音波を用いた海洋調査の概要： 海洋では音波を使った様々な測器類を用いた調査が行われています。測器類の歴史と、実際に行われている調査について学習します。 授業担当者・授業実施方法：広瀬美由紀・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第7回	（第7回～10回） 現在実施されている音波を用いた調査の問題点や未来にどのようなことができれば良いかについて、その知識と考える力を身につけるため、グループに分かれてグループディスカッションなどを行い、最後はグループ発表をしてもらいます 現在実施されている音波を用いた調査の問題点や未来にどのようなことができれば良いかについて、その知識と考える力を身につけるため、グループに分かれてグループディスカッションなどを行い、最後はグループ発表をもらいます
第8回	（第7回～10回） 現在実施されている音波を用いた調査の問題点や未来にどのようなことができれば良いかについて、その知識と考える力を身につけるため、グループに分かれてグループディスカッションなどを行い、最後はグループ発表をもらいます 音波を用いた調査について考えよう① ～グループ分け～ グループに分かれ、各自が関心ある水域での問題について、音波を用いてどのようなことができるか、ディスカッションし、グループの検討テーマを決めます。 授業担当者・授業実施方法：広瀬美由紀・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第9回	（第7回～10回） 現在実施されている音波を用いた調査の問題点や未来にどのようなことができれば良いかについて、その知識と考える力を身につけるため、グループに分かれてグループディスカッションなどを行い、最後はグループ発表をもらいます 音波を用いた調査について考えよう② ～ディカッション・調べ作業～ 第7回で決めたテーマについて、インターネット、図書館などを活用し、実際に実施されているのか、どのような問題があるのか等を調べるとともにグループでディスカッションし、テーマの現実性と問題点について考える。 授業担当者・授業実施方法：広瀬美由紀・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第10回	（第7回～10回） 現在実施されている音波を用いた調査の問題点や未来にどのようなことができれば良いかについて、その知識と考える力を身につけるため、グループに分かれてグループディスカッションなどを行い、最後はグループ発表をもらいます 音を用いた調査について考えよう④ ～発表会～ グループ別に発表を行い、各テーマについて全体でディスカッションを行う。 授業担当者・授業実施方法：広瀬美由紀・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第11回	この回から第15回までの「学生の思考を活性化させるための授業手法」については、授業中に伝えます。 （第11回～15回） 海面の利用として最も一般的な漁業を中心として、漁業者、仲卸業者、消費者、地域住民など、様々な立場の人々が相互に関わりながらどのように生活しているかについて、実態を紹介する。 授業担当者・授業実施方法：藤井陽介・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第12回	（第11回～15回） 海面の利用として最も一般的な漁業を中心として、漁業者、仲卸業者、消費者、地域住民など、様々な立場の人々が相互に関わりながらどのように生活しているかについて、実態を紹介する。 授業担当者・授業実施方法：藤井陽介・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）

第13回	(第11回～15回) 海面の利用として最も一般的な漁業を中心として、漁業者、仲卸業者、消費者、地域住民など、様々な立場の人々が相互に関わりながらどのように生活しているかについて、実態を紹介する。 授業担当者・授業実施方法：藤井陽介・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第14回	(第11回～15回) 海面の利用として最も一般的な漁業を中心として、漁業者、仲卸業者、消費者、地域住民など、様々な立場の人々が相互に関わりながらどのように生活しているかについて、実態を紹介する。 授業担当者・授業実施方法：藤井陽介・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）
第15回	(第11回～15回) 海面の利用として最も一般的な漁業を中心として、漁業者、仲卸業者、消費者、地域住民など、様々な立場の人々が相互に関わりながらどのように生活しているかについて、実態を紹介する。 授業担当者・授業実施方法：藤井陽介・対面型（オンラインで実施する場合は参加に必要な情報をあらかじめお知らせします）

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592001701	科目番号／Course code	05920017
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A8海洋食料資源の応用／Applied Science of Marine Food Resources		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	濱田 友貴／Hamada Yuki, 市川 寿／Ichikawa Hisashi, 谷山 茂人／Taniyama Shigeto, 王 曜／Wang Yao		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	濱田 友貴／Hamada Yuki		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	濱田 友貴／Hamada Yuki, 市川 寿／Ichikawa Hisashi, 谷山 茂人／Taniyama Shigeto, 王 曜／Wang Yao		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟43／RoomA-43		
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	濱田 yuhamada▲nagasaki-u.ac.jp、谷山 tshigeto▲nagasaki-u.ac.jp、王 wangy▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は、▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	谷山と王(水産学部新館3階)、濱田(水産学部新館2階)		
担当教員TEL/Tel	濱田(2854)、谷山(2842)、王(2837)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業の前後、またはLACSのメールで随時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	最近の食糧事情やどのような食品をどのくらい私たちは摂取する必要があるのかを知った上で、水産食品(マリンフード)の成分とそれらの変化、マリンフードの多彩さとそれらの製造方法、さらには衛生管理・安全確保に関わる諸問題を理解し、食にまつわる今日的な課題にどう対処したら良いかを自ら考えることができる素養を身につける。まとめとして、長崎という地域に根ざした、あるいはここに関わりを持つ食の問題を掘り起こし、自らの提言を考え、それを受講者同士で議論できる能力と、他者に向けて発表・発信できる能力とを身につける。		
授業到達目標/Course goals	海洋食糧資源に関わる基本的な事項を、 1)受講生相互に啓発しながら学び、 2)他者とのコミュニケーションを図って深め、 3)第3者に正しく伝達する能力を獲得する。 自主的に取り組む能力や思考方法を身につけ、学修事項を基にして意欲的にグローバルな社会貢献や地域貢献(特に長崎)ができるようになる事を期待する。 1、世界や日本、特に長崎の水産事情について説明ができる。 2、水産食品の成分やそれらの特徴的な変化について、説明できる。 3、水産食品の製造方法や衛生管理について説明ができる。 4、世界や日本、特に長崎の水産食品の問題点とその解決策について、自分の意見をもとに受講者同士で議論してまとめて発表することができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	課題を抽出するための中間レポート30点、課題発表50点(発表、まとめレポート、質疑応答)、授業への取り組み20点。 60点以上の得点者に単位を認定する。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		

事前、事後学修の内容/Preparation & Review	特段の事前学習が必要な場合は授業回毎に指示を行う。事後学習は、授業をきっかけとして関連事項を調べ、用いた書物や文献情報とともにまとめること。授業をきっかけとして、理解を深めるために更なる自己学習を行っていただきますが、試験は設定したテーマに関するまとめ発表（パワーポイントを使った口頭発表）の形式です。発表内容を受講者同士でまとめ、考える作業が含まれます。総計で60時間以上の自主学習を行って頂くことを前提としています。	
キーワード/Keywords	食品機能、食品成分とその変化、安全性、食糧事情と海洋食糧資源、地域貢献(長崎地域およびグローバル)	
教科書・教材・参考書/Materials	参考書;食品化学-目で見える食品成分とその変化-(高野克己 他、三共出版、2005、4-7827-0509-3)、基礎から学ぶ食品科学(渡邊悦生 他、成山堂書店、2010、4-425-89001-9)、食品衛生学第三版(山中英明 他、恒星社厚生閣、2012、4-7699-1268-2)、水産食品学(須山三千三 他、恒星社厚生閣、1987、4-7699-0592-9)	
受講要件（履修条件）/Prerequisites		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp	
備考/Remarks	全回対面で実施予定。	
学生へのメッセージ/Message for students	最終段階で「長崎地域に何らかの関わりを持つ海洋食糧に関する問題を取り上げた発表とディスカッション」参加が試験にあたりますので、出席が必須です。それに先立って、その元となる資料をまとめる「課題提出」も成績評価事項ですので留意して下さい。なお、レポート等の提出は基本的にLACS経由での提出となりますので、指示に従ってPCを準備・持参する事。	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N	
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course		
授業計画詳細／Course Schedule		
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents	授業手法／
第1回	我が国の食糧事情 担当：谷山（対面）	A
第2回	食の安全と安心 担当：谷山（対面）	A
第3回	水産食品の基礎的なトピックス 担当：谷山（対面）	A
第4回	水産食品の基礎的なトピックス 担当：王（対面）	A
第5回	水産食品の基礎的なトピックス 担当：市川（対面）	A
第6回	水産食品の基礎的なトピックス 担当：市川（対面）	A
第7回	水産食品の基礎的なトピックス 担当：市川（対面）	A
第8回	まとめ課題の作成と提出（食糧資源に関する課題の抽出とそれに対する意見を論述し提出） 担当：王（対面）	A D
第9回	水産食品の実践応用的トピックス(一部で長崎県の事例を通して学修) 担当：王（対面）	A
第10回	水産食品の実践応用的トピックス(一部で長崎県の事例を通して学修) 担当：全教員（対面）	A
第11回	水産食品の実践応用的トピックス(一部で長崎県の事例を通して学修) 担当：濱田（対面）	A
第12回	水産食品の実践応用的トピックス(一部で長崎県の事例を通して学修) 担当：濱田（対面）	A
第13回	水産食品の実践応用的トピックス(一部で長崎県の事例を通して学修) 担当：濱田（対面）	A
第14回	課題発表とディスカッション（受講者数によって日数が決まります） 担当：全教員（対面）	A B D

第15回	課題発表とディスカッション（受講者数によって日数が決まります） 担当：全教員（対面）	A B D
第16回	課題発表とディスカッション（受講者数によって日数が決まります） 担当：全教員（対面）	A B D

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 月／Mon 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592000101	科目番号／Course code	05920001
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A9情報と社会／Information in Society		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	丹羽 量久／NIWA Kazuhisa, 野中 陽一郎／Nonaka Yoichiro, 福澤 勝彦／Fukazawa Katsuhiko, 上繁 義史／Ueshige Yoshifumi, 鈴木 斉／SUZUKI Hitoshi		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	丹羽 量久／NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	丹羽 量久／NIWA Kazuhisa, 野中 陽一郎／Nonaka Yoichiro, 福澤 勝彦／Fukazawa Katsuhiko, 上繁 義史／Ueshige Yoshifumi, 鈴木 斉／SUZUKI Hitoshi		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	ICT基盤センターセミナールーム		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	k-niwa▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	ICT基盤センター 2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2084		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日 13:00-14:00 (事前に電子メールで教員と時間調整を行うこと)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	【授業の概要】 この授業では、五名の教員がそれぞれの専門分野を取り上げて、実社会における「情報」について以下の四つの観点から講義を行います。 ・情報の価値 ・情報の結合・活用 ・人工知能 ・可視化 ・情報セキュリティとプライバシー 週ごとに授業テーマを設定し、皆さんへの問いかけを提示します。テーマに関連した講義の内容を参考にして、自分の考えをまとめます。受講者同士でコメントし合って、その結果を参考にして、自分の考えをスライドにまとめます。 【授業の実施方法】 以下の(1)を原則とするが、教員の指示により(2)もしくは(3)とする場合もある。 (1) 対面授業(教室で直接対面しての授業) (2) リアルタイムのオンライン授業(Webの会議システムを使用した遠隔での授業) (3) オンデマンド授業(用意された動画や(1)(2)の記録を視聴する授業) 【授業の位置付け】 本科目は教養教育におけるプラネタリーヘルスⅠ科目である。		
授業到達目標/Course goals	・経済学的視点から理論とその限界について学び、事例をあげて説明できる ・情報の結合・活用に関連する技術として、ソーシャルメディアと人工知能に関する技術的背景を理解し、時代の変遷を説明できる ・「情報」の可視化が情報社会に貢献している事例について説明できる ・情報セキュリティの社会での活用事例と課題について説明できる		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives ☐C. 技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills ☐D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ■E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above 考えに対して「合意/非合意」の両観点で相互評価する取り組み ☐F. 教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各単元と各授業で課すレポート(10点×7回=70点のうち、42点以上を合格とする)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	(事前) 授業内容の理解と発表の為に、事前に講義内容の十分な学修と知識の習得を行うこと。(2h) (事後) 相互評価および教員によるフォローを受けて、授業後にも自己評価シートの作成と改善を行う。(2h)
キーワード/Keywords	情報の価値、ソーシャル・メディア、情報の可視化、情報セキュリティとプライバシー
教科書・教材・参考書/Materials	適宜関連資料を授業で配布する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	授業ではノートPCを利用するので毎回持参すること。(初回授業から持参すること) 全回出席を原則とする。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2974 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業の実施方法については、「授業の概要及び位置づけ」の記載を参照すること。 LACSのURL https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/
学生へのメッセージ/Message for students	初回授業からノートパソコンを使うので、十分に充電した上で、全回持参すること。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	丹羽 量久/社会基盤構造物の設計・製作に関する線形/非線形構造解析のコンサルテーションおよび技術営業業務、橋梁の自動設計システムのうち変形・応力を計算するソフトウェア群の開発、科学技術やWebに関わるITシステム構築の提案を行う営業業務、既存業務以外分野における新規事業の開拓・事業化、および関係部署のマネージャーとしての年度計画の立案・数値の管理・統制等の業務。 /コンピュータやインターネットに関わることに注意すべきことについて、その仕組みや根拠を実務から得た問題点等を加味しながら講義する。また、演習の際は、周りとのコミュニケーションを取りながら、わからないことを解決していく経験を積ませる。 /上繁 義史/財団法人北九州産業学術推進機構、財団法人九州システム情報技術研究所にて、研究員としてIT関連技術の研究に従事/IT技術関連の研究員としての経験を持つ教員が、コンピュータに関する基本的な原理や情報に関する基礎理論について講義・演習を行う。 /鈴木 斉/富士通愛知エンジニアリングでの勤務経験/ソフトウェア開発系企業での勤務経験を有する教員が関連する業界の現状等について実態を交えて解説する。/
授業計画詳細/Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容/Contents
第1回 & 第2回	【ガイダンス】(対面実施、担当:丹羽) この授業の進め方、および情報に対する多面的・柔軟なとらえ方について取り上げます。 【情報技術から見た現代】(対面実施、担当:鈴木) 情報・通信技術の発展を振り返りながら、この変化について取り上げます。
第3回 & 第4回	【情報化に伴う集団の形成、ヒューマン・コミュニケーション】(対面実施、担当:鈴木) 情報・通信技術の発展がもたらした人の繋がりについて取り上げます。
第5回 & 第6回	【人工知能と機械学習】(対面実施、担当:鈴木) コンピュータ上で構築される人工知能や機械学習について取り上げます。
第7回 第8回	【AIと社会での活用】(対面実施、担当:丹羽、鈴木) 実社会における人工知能の活用について取り上げます。
第9回 & 第10回	【利便性・安全性とプライバシー】(対面実施、担当:上繁) ネットサービスにより生活が便利になりました。また、防犯カメラなどを普及させて生活の安全性を高めようとしています。その反面、個人のプライバシーとのバランスが問題になっています。この回では、情報セキュリティの観点から問題を例示してどう向き合うかを考えます。
第11回 & 第12回	【情報の表現と可視化】(対面実施、担当:野中) ・情報社会に役立つ表現方法・可視化の方法を演習形式で学びます。 ・生成AIを活用してアカデミックディベートを行い、批判的に考える力を養います。

第13回 & 第14回	【社会における情報の価値】(1) (対面実施、担当：福澤) ・ 不確実な世界を確率で定義する。 ・ 価値を決定するための期待値とその意味について考えよう ・ 情報の価値を定義する 【情報の価値を計算する】(1) (対面実施、担当：福澤) ・ 期待値を基礎とした情報の価値の算出 ・ 期待値は万能か？
第15回	【社会における情報の価値】(2) (対面実施、担当：福澤) 【情報の価値を計算する】(2) (対面実施、担当：福澤) ※受講者によるプレゼンテーションを予定しています。

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592000301	科目番号／Course code	05920003
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A9情報化の役割と課題／Roles and Issues of Informatization		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	丹羽 量久／NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	丹羽 量久／NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	丹羽 量久／NIWA Kazuhisa		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	ICT基盤センターセミナールーム		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	k-niwa▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください）		
担当教員研究室/Office	ICT基盤センター 2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2084		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日 13:00～14:00（事前に電子メールで教員と時間調整を行うこと）		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	【授業の概要】 この授業では、日々の暮らしで身近に感じるテーマの中から「情報」に関わることを取り上げている。 社会で実際に運用されている情報システムがどのような役割を担っているのか、またどのような課題を持っているのか、について一人一人が個別のトピックについて調べる。得られた成果を整理することにより、社会と情報システムとの関わりを認識する。重要と考えられる事項を抽出して、他者に説明することにより、自身が理解を深める。 全員が学習成果をクラス内で共有するとともに、プレゼンテーションを行う。受講者間でプレゼンテーションを相互評価する。フィードバックされた評価結果を参考にして、スライド資料とナレーションの改善に取り組む。 【授業の実施方法】 以下の(1)を原則とするが、教員の指示により(2)もしくは(3)とする場合もある。 (1) 対面授業（教室で直接対面しての授業） (2) リアルタイムのオンライン授業（Webの会議システムを使用した遠隔での授業） (3) オンデマンド授業（用意された動画や(1)(2)の記録を視聴する授業） 【授業の位置付け】 本科目は教養教育におけるプラネタリーヘルス I 科目である。		
授業到達目標/Course goals	情報社会における情報システムの役割と仕組みについて理解した上で、個別テーマについて、その課題を整理して、わかりやすく説明できるようになることを目標とし、それに必要となる以下のことを修得する。 ・特定のトピックについて深く調べていく手法 ・他者が理解しやすい資料の作成方法と提示方法 ・他者と協力して資料を改善し、かつ理解を深めていく方法 ・学習活動と得られた成果をポートフォリオとして構成する方法		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		

学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B.多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives □C.技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills □D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ■E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above 学生間の相互評価を組み込んでいる □F.教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	・毎回の授業(予習・復習を含む)における学習の取り組み状況 ・ワークシート、レポート、他者への提示(プレゼンテーション等)、総合レポート(ポートフォリオ)のできばえ なお、プレゼンテーション等は受講者間の相互評価を重視する。 ・成績評価については、ワークシートや総合レポート等(5点×12=60点)およびプレゼンテーションの課題(3点×5=15点)の合計75点のうち、45点以上を合格とする。ただし、総合レポートを提出しない場合、他課題の得点に関係なく、不合格となることがあるので注意すること。 なお、総合レポートは、授業終了前にワークシート等の学習成果を取りまとめる集大成の位置づけのため、各学習成果に加筆・修正が行われたものと考えている。したがって、ワークシート等の内容に関する評価については、総合レポート内で代替する。そのため、ワークシート等の内容が提出時から書き換わっていても再提出することを求めない。
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	授業中は主にグループ内での情報共有・議論やプレゼンテーションの相互評価の時間に割り当てているので、事前・事後学習についてはその準備としての調べ学習やスライド作成に充てる。(4H)
キーワード/Keywords	情報社会、情報システム、業務の情報化
教科書・教材・参考書/Materials	必要に応じて、LACSを通じて配布する。 調べ学習に用いる参考図書については、授業で情報探索法を学び、自分で選定する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	全回出席を原則とし、必ずノートPCを持参すること。 初回授業からLACSを利用する(ノートPCが必要)。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室) 連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2974
備考/Remarks	授業の実施方法については、「授業の概要及び位置づけ」の記載を参照すること。 LACSのURL https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/
学生へのメッセージ/Message for students	調べ学習の過程で習得する「正しい情報を得る方法」については、在学中の授業や研究にも活用できる技能です。受講者間でプレゼンテーションを相互評価が改善効果に結び付くことに気づくことができます。また、Web会議システムを使って映像・音声配信する演習を組み込んであり、この経験は急激に普及したオンラインコミュニケーションに役立ちます。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	丹羽 量久/社会基盤構造物の設計・製作に関する線形/非線形構造解析のコンサルティングおよび技術営業業務、橋梁の自動設計システムのうち変形・応力を計算するソフトウェア群の開発、科学技術やWebに関わるITシステム構築の提案を行う営業業務、既存業務以外の分野における新規事業の開拓・事業化、および関係部署のマネージャーとしての年度計画の立案・数値の管理・統制等の業務。/コンピュータやインターネットに関わることに注意すべきことについて、その仕組みや根拠を実務から得た問題点等を加味しながら講義する。また、演習の際は、周りとのコミュニケーションを取りながら、わからないことを解決していく経験を積ませる。/
授業計画詳細/Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容/Contents
第1回	【ガイダンス】(対面実施 または オンライン/オンデマンド) ・授業の内容、進め方、評価方法等 【情報化について考える】(1/2)(対面実施 または オンライン/オンデマンド) ・情報化概論 ・確認テスト
第2回	【情報化について考える】(2/2)(対面実施 または オンライン/オンデマンド) ・情報システムの開発・運用事例のビデオ視聴 ・初回授業の講義内容を踏まえて考察するレポート

第3回	【学習テーマの決定】（対面実施） ・学習テーマの決定とグループ編成 ・学習テーマについて解説するビデオの視聴 ・各グループにて、一人ずつ個別に担当キーワードの決定
第4回	【参考図書の選定】（対面実施） ・担当キーワードに関するパスファインダーの作成 ・参考図書の選定
第5回	【情報整理】（オンデマンド） ・参考図書を熟読し、調査項目の選定(予習) ・調査項目について詳細に整理 ・連想キーワードの列挙
第6回	【担当キーワードに関する情報共有と理解の深化】（対面実施） ・担当キーワードの調査内容をグループ内討論により共有・深化 ・連想キーワードの選択 ・中間発表のメインメッセージの決定
第7回	【中間発表の設計】（対面実施） ・プレゼンテーションの評価指標 ・プレゼンテーションの主張の明確化、ストーリーの組み立て、スライドの作成 ・スライドへのナレーションの組み込み（授業時間外）
第8回	【中間発表の予行演習】（対面実施） ・各グループにて、Web会議システムを使った映像・音声配信によるプレゼンテーションの予行演習 ・プレゼンテーションの改善を目的とした、ループリックによる相互評価
第9回	【中間発表の準備】（対面実施） ・相互評価結果を参考にして、スライドおよびナレーションを改善 ・中間発表のプレゼンテーションのファイル（PowerPoint形式およびビデオ形式）を投稿
第10回	【中間発表】（対面実施） ・評価対象グループのプレゼンテーションを自PCにダウンロードして視聴 ・ループリックによるプレゼンテーションの相互評価 ・各プレゼンテーションへのコメントと疑問点を投稿
第11回	【中間発表の振り返り】（対面実施） ・視聴者からの投稿を整理し、プレゼンテーション改善のヒントとして確認 ・質問への回答
第12回	【連想キーワードの調査】（対面実施） ・授業で修得したことを活用して、連想キーワードを調査
第13回	【最終発表の準備】（対面実施） ・中間発表で得られた改善のヒントを参考にして、連想キーワードを加味したプレゼンテーションのスライド作成 ・最終発表のプレゼンテーションのファイル（PowerPoint形式およびビデオ形式）を投稿する。
第14回	【最終発表】（対面実施） ・評価対象グループのプレゼンテーションを自PCにダウンロードして視聴 ・ループリックによるプレゼンテーションの相互評価
第15回	【総合レポート・まとめ】（対面実施） ・最終発表の振り返り ・総合レポートとして、学習成果（ワークシート,スライド等）を取りまとめ、学習活動に対する省察を加える ・授業の総括

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4ク ォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250544000101	科目番号／Course code	05440001
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A10データの科学的分析と可視化の実践論／Practical Approaches to Scientific Data Analysis and Visualization		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	太田 啓介		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	太田 啓介		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	太田 啓介		
科目分類／Course Category	ブラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟45／RoomC-45		
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	otak▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパスA&TLab爽創館202		
担当教員TEL/Tel	otak▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する▲を@に変更して送信してください)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜3限以降 (事前にメールで調整をしてください)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本授業では、データの整理・可視化・分析の基礎を学び、情報を適切に扱うスキルを習得することを目的とする。 Excelを用いたデータの整理・統合・可視化を学び、その後BIツール「Tableau」による可視化・ダッシュボード構築へと発展させる。これにより、異なるツールの特性を理解し、適切なデータ活用の方法を身につける。 実践的な演習を通じて、データの構造を理解し、視覚的に表現する技術を習得するとともに、データに基づく意思決定の重要性を学ぶ。さらに、可視化したデータを考察し、効果的に伝える力を養うことで、学術分野や日常生活における情報活用能力を向上させる。 受講生が今後の学習や研究でデータを活用し、論理的に分析・考察し、適切に表現する力を身につけることを目指す。		
授業到達目標/Course goals	データの整理、集計、可視化の基本手法を習得し、データの構造を理解できる。 分析目的に応じて適切な可視化手法を選択し、ExcelやBIツールを活用した効果的なデータ表現を実践できる。 データの特徴や傾向を把握し、それを自分の言葉で説明し、他者に分かりやすく伝えることができる。 データをもとにした意思決定の重要性を理解し、日常生活や社会におけるデータ活用の意義を考察できる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) /Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力／Generic Competence □倫理観／Ethics □多様性の理解／Understanding Diversity □主体性／Autonomy □協働性／Cooperativeness ■考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B.多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives ■C.技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills □D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F.教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	理解度を反映するために、以下の基準で成績評価を行う。 また、合計100点のうち60点以上を合格とする。 データ可視化と分析の演習課題 (10点×4回＝40点) 課題レポート (40点) 授業への取組み (20点)		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		

事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】授業前にLACSにアップロードされた授業資料を確認し、不明な用語について調査しておくこと。また、基礎的な内容を理解し、自身での予習を進めておくこと。(2H) 【復習】各単元の講義・演習内容を復習し、課題に取り組んで理解を深めること。(2H)
キーワード/Keywords	Excel、BIツール、Tableau、データ可視化、データ分析
教科書・教材・参考書/Materials	【教科書・教材】 教科書は指定しない。LACS上で教材を提供する
受講要件（履修条件）/Prerequisites	やむを得ず正当な理由で欠席する場合は事前に連絡をとり、指示を受けること。 授業には必ずノートパソコンを持参すること。初回授業より利用する。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	実務経験内容： 建設関連企業にて企業戦略の立案、組織マネジメント、経営資源の配分最適化などに従事。その後、長崎大学大学教育イノベーションセンターにて教学IR部門の担当として、教学データの調査、分析、情報公開を行っている。 実務経験に基づく教育内容： 実務的なデータの取り扱い方を学び、可視化手法を演習形式で指導する。さらに、可視化されたデータを基に意思決定に必要な情報へ昇華させる方法を探求し、実務での応用力を養う。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	【ガイダンス】（対面実施） データの活用と可視化の重要性を理解し、授業の全体像を確認する
第2回	【Excel① データ整理と基本操作】（対面実施） ピボットテーブルを用いたデータの整理・集計を学ぶ
第3回	【Excel② データの結合と統合】（対面実施） VLOOKUP を用いたデータの統合を学び、INDEX/MATCH や Power Query の概要を紹介する
第4回	【Excel③ 基本的な可視化】（対面実施） 棒グラフ・折れ線グラフ・散布図を作成し、データの可視化手法を学ぶ
第5回	【Excel④ 応用的な可視化】（対面実施） クロス集計やフィルタ機能を活用し、データの詳細な分析を行う
第6回	【Excel⑤ ダッシュボード作成】（対面実施） スライザーや複数グラフを統合し、ダッシュボードを作成する
第7回	【Excelのダッシュボード考察と改良】 作成したダッシュボードを分析し、改良点を検討する
第8回	【BIツールの概念とTableauの導入・セットアップ】（対面実施） BIツールの役割を理解し、Tableauをインストール・設定する
第9回	【Tableauのインストールとセットアップ】（対面実施） ソフトの導入、データインポート、基本操作を習得する
第10回	【Tableau① データ整理と基本操作】（対面実施） データインポート、フィールド設定、データの準備を行う
第11回	【Tableau② データの結合と統合】（対面実施） JOIN・データブレンディングを活用し、複数データの統合を行う
第12回	【Tableau③ 基本可視化】（対面実施） 棒グラフ・折れ線グラフ・散布図を作成し、可視化の基本を学ぶ
第13回	【Tableau④ 応用的な可視化】（対面実施） クロス集計やフィルタ機能を活用し、より高度な可視化を行う
第14回	【Tableau⑤ ダッシュボード構築とデータ分析実践】（対面実施） ワークシートの統合、フィルタ機能を用いたダッシュボードを作成し、分析を行う
第15回	【総括とフィードバック】（対面実施） 授業全体の振り返りを行い、学習内容を整理する

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586012501	科目番号／Course code	05860125
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 13111_005		
授業科目名／Course title	●A10情報の活用／Fundamental Information Technology		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	丹羽 量久／NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	丹羽 量久／NIWA Kazuhisa		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	丹羽 量久／NIWA Kazuhisa		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	I C T 基盤センターセミナールーム		
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	k-niwa▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	ICT基盤センター 2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2084		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日14:00-16:00 (事前に電子メールで教員と時間調整を行うこと)		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	【授業の概要】 報告書の作成にあたって、文書構造を意識した文章の組み立て方法を理解し、推敲結果の反映、その体裁を整えるといった一連の文書作成作業を容易にかつ効率的に行うために必要な文書作成ソフトの活用方法を習得させる。 また、数値データを目的に応じて適切な方法で分析し、その結果をわかりやすく表現できるように、表計算ソフトに備わっている種々の関数機能、グラフ作成機能を習得させる。そして、与えられた目的に応じてデータ群をどのように可視化するのがよいかを考える発展課題に取り組ませる。 【授業の実施方法】 以下の(1)を原則とするが、教員の指示により(2)もしくは(3)とする場合もある。 (1) 対面授業(教室で直接対面しての授業) (2) リアルタイムのオンライン授業(Webの会議システムを使用した遠隔での授業) (3) オンデマンド授業(用意された動画や(1)(2)の記録を視聴する授業) 【授業の位置付け】 本科目は教養教育におけるプラネタリーヘルス I 科目である。		
授業到達目標/Course goals	デジタル文書作成技法を理解し、整った報告書(レポート)を効率的に作成できるようになる。 表計算技法を理解し、数値データのデータ分析に応用し、その結果をグラフ等で表現できるようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力／Generic Competence □倫理観／Ethics □多様性の理解／Understanding Diversity ■主体性／Autonomy □協働性／Cooperativeness □考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over □B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 Activities involving others to think from various perspectives ■C. 技能修得のために実践する活動
 Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業中の演習課題および授業時間外に課す予習・復習・レポートの提出状況とその内容を総合的に評価する。 各単元の配点は、復習問題：10点×2、文書作成技法：6点×4、表計算技法：8点×3、分析のための可視化：8点×4の合計100点で、うち60点以上を合格とする。ただし、すべての課題を提出しない場合、他課題の得点に関係なく、不合格となることがあるので注意すること。 原則として全回出席を前提とする。ただし、やむを得ず正当な理由で欠席する場合は担当教員に連絡すること。		

各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】授業資料を授業前にLACS上にアップするので、熟読しておくこと。わからない用語について調べるとともに基礎課題に取り組むこと。(2H) 【復習】各単元のレポート課題に取り組むこと。(2H)
キーワード/Keywords	デジタル文書作成技法、表計算技法
教科書・教材・参考書/Materials	【教科書・教材】LACS上で提供する授業資料と演習教材。 【参考書】 [1] 富士通エフ・オーエム株式会社：『情報リテラシー Windows11/Office2021対応』, FOM出版, 2022年3月。ISBN：978-4-938927-53-0 ※情報・データサイエンス科目「情報リテラシー入門」「応用情報処理」のテキスト [2] 高杉尚孝：『論理表現力』, 日本経済新聞社, 2010年6月。 [3] テクニカルコミュニケーター協会：『日本語スタイルガイド 第2版』, テクニカルコミュニケーター協会, 2011年4月。 [4] 古郡延治：『論文・レポートの文章作成技法 論理の文章術』, 日本エディタースクール出版部, 2006年3月。 [5] 富士通エフ・オーエム株式会社：『Microsoft Office Specialist Word 365対策テキスト&問題集』, FOM出版, 2023年12月。ISBN：978-4-86775-069-8 [6] 富士通エフ・オーエム株式会社：『Microsoft Office Specialist Excel 365対策テキスト&問題集』, FOM出版, 2023年7月。ISBN：978-4-86775-056-8
受講要件（履修条件）/Prerequisites	全回出席を原則とする。授業中だけでなく、授業時間外においても、課題および予習・復習等に取り組むこと。 授業には必ずノートパソコンを持参すること。初回授業より利用する。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	LACSのURL https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/
学生へのメッセージ/Message for students	自分の考えを相手に伝える際、誤解がないように表現することが重要です。授業では、この観点に立って講義していきます。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	実務家教員名：丹羽量久 実務経験内容： 社会基盤構造物の設計・製作に関する線形/非線形構造解析のコンサルティングおよび技術営業業務、橋梁の自動設計システムのうち変形・応力を計算するソフトウェア群の開発、科学技術やWebに関わるITシステム構築の提案を行う営業業務、既存業務以外の分野における新規事業の開拓・事業化、および関係部署のマネージャーとしての年度計画の立案・数値の管理・統制等の業務。 実務経験に基づく教育内容： 顧客や社内向けの報告書を作成した経験を生かして、いかに相手に伝わるように構成するか（文章構造と論理展開および各種データの可視化）に重点を置き、講義に加えて多数の関連する演習に繰り返し取り組ませる。
授業計画詳細/Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容/Contents
第1回	【ガイダンス】（対面実施） この科目の概要、目的、目標、内容、進め方、評価方法について説明する。 前期開講の情報・データサイエンス科目「情報リテラシー入門」「応用情報処理」の授業内容に関連した復習課題を指示する。
第2回	【文書作成技法(1/4)】（対面実施） 読者に誤解が生じないように文章表現を明瞭にすることは重要である。文書作成技法の一つとして、論理展開に対応した文の接続に重点を置いて、文書構造を意識して助詞や接続詞を使い分ける方法について講義する。関連する新聞記事等を取り上げた演習により、論理展開に沿った適切な文の接続について考える。
第3回	【文書作成技法(2/4)】（対面実施） 文書データの構造化を意識した文書作成ソフトの活用方法として、Microsoft Wordの機能（アウトライン、スタイル、目次の自動生成）を取り上げる。
第4回	【表計算の復習】（対面実施） 表計算の復習課題に取り組む。

第5回	【文書作成(3/4)】（対面実施） 文書推敲に伴う編集作業を効率的に行えるように検索・置換等の演習に取り組む。さらに、正規表現を使う高度な検索・置換について考える。
第6回	【文書作成技法(4/4)】（対面実施） 一連の文書を複数人で協同作成することを想定して、編集履歴（編集者、時刻、内容等）やコメントを挿入する校閲機能の演習課題に取り組む。 文字のユニバーサルデザインについて講義する。
第7回	【表計算技法(1/4)】（対面実施） 「情報基礎」の復習課題のうち、クラス内で理解度が低いと考えられる機能を重点的に解説する。 Excel内部の情報処理を意識できるように、一つの課題に対して複数の処理方法を考える演習、すなわち各関数の入力・処理・出力が何であるかを考えて適切に使い分ける演習に取り組む。
第8回	【表計算技法(2/4)】（対面実施） Microsoft Excelに備わっている関数（統計、データベース等）のうち、実務での利用頻度が高いものを取り上げた演習を行う。 データの件数を数える関数を取り上げる。
第9回	【表計算技法(3/4)】（対面実施） Microsoft Excelに備わっている関数（統計、データベース等）のうち、実務での利用頻度が高いものを取り上げた演習を行う。 データベース関数を取り上げる。
第10回	【表計算技法(4/4)】（対面実施） Microsoft Excelに備わっている関数（統計、データベース等）のうち、実務での利用頻度が高いものを取り上げた演習を行う。 複数シートを使う演習に取り組む。
第11回	【分析のための可視化(1/4)】（対面実施） さまざまな情報の特徴等を考察する際、それらを視覚的に表現することは理解を助けるために有効な手段である。Microsoft Excelに備わっているグラフの種類とその特徴、一般的な準備手順について講義する。 データラベルを活用した散布図、レーダーチャートを描画する演習に取り組む。
第12回	【分析のための可視化(2/4)】（対面実施） グラフ作成の原則について講義する。複数のデータ系列で校正されるテキスト形式の外部データをMicrosoft Excelに読み込み、容易に比較検討が行えるグラフの描画演習に取り組む。
第13回	【分析のための可視化(3/4)】（対面実施） 円グラフの活用、グラフを用いた分析例について講義する。複合グラフを描画する演習に取り組む。
第14回	【分析のための可視化(4/4)】（対面実施） 総務省統計局が公表する国勢調査の各種データを取り上げる。設定された問題について考察するための効果的なグラフを考え、描画する総合課題に取り組む。
第15回	【クロス集計表の利用】（対面実施） クロス集計表を容易に操作できるMicrosoft Excelのピボットテーブルを取り上げて、データ群からさまざまな特徴を見出す演習に取り組む。 【総括】

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586020901	科目番号／Course code	05860209
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 13711_005		
授業科目名／Course title	●A11核兵器とは何か／Basic Guide to Nuclear Weapons		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	中村 桂子／Nakamura Keiko		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	中村 桂子／Nakamura Keiko		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	中村 桂子／Nakamura Keiko		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育G棟38／RoomG-38		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	nakamurak▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください）		
担当教員研究室/Office	核兵器廃絶研究センター2F		
担当教員TEL/Tel	095-819-2865		
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日3校時（12：50-14：20）		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	このクラスでは、核兵器廃絶への道筋を考える際に不可欠な基礎知識として、核兵器の歴史と現状を総合的に俯瞰していきます。具体的には、核兵器とはいかなる特徴を持つ兵器か、世界の国々は核兵器をめぐるどのような政策をとってきたのか、いかなる軍備管理・軍縮努力が行われてきたのか（あるいはこなかったのか）といった点を学びます。		
授業到達目標/Course goals	核兵器をめぐる歴史と現状についての基本的な知識を得るとともに、核兵器のない世界の実現に向けた課題が何かを理解し、解決への具体的方途について学生一人一人が自分の考えを説明できるようになることを期待します。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席点および講義の際のリアクションペーパー、意見発表などの平常点が全体の60%、期末レポートが40%です。		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学修：授業内容に関連した時事ニュースなどを読んでおく（2時間）。 事後学修：授業で使用した参考資料などを読み、理解を深める（2時間）。		
キーワード/Keywords	核兵器、軍備管理、軍縮、抑止		
教科書・教材・参考書/Materials	中村桂子『核兵器のある世界とこれからを考えるガイドブック』法律文化社、2020年を参考書とする。授業をより深く理解するために手元に置いておくことを強く勧める。		
受講要件（履修条件）/Prerequisites	全回出席が原則。		
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@m1.nagasaki-u.ac.jp		

備考/Remarks	授業は原則としてすべて対面で行います。
学生へのメッセージ/Message for students	核兵器廃絶は可能でしょうか??. 答えは「あなた次第」です。核兵器の問題を切り口に、人権問題や環境問題といった人類共通の課題に対し、一人一人の個人がどのように関与していくことができるのか、この授業を通じてぜひ考えてみてほしいと思います。授業で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	中村 桂子/核兵器廃絶研究分野、特定非営利活動法人ピースデポ(横浜)の事務局長の実務経験を有する/特定非営利活動法人ピースデポ(横浜)の事務局長として、核軍縮・不拡散問題に取り組んでいた実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識を講義により教授する。/
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	授業の進め方について イントロダクション：現代における核兵器 【対面】中村
第2回	核兵器の誕生とその特性：核時代の始まりから広島・長崎まで 【対面】山口
第3回	核兵器の非人道性：被爆者の体験から 【対面】山口
第4回	核兵器の非人道性：核実験の影響 【対面】山口
第5回	米国とロシアにおける核兵器体制 【対面】中村
第6回	米国とロシアにおける核兵器体制 【対面】中村
第7回	「核の傘」に依存する国々の論理 【対面】中村
第8回	フランス、中国、イギリス、インド、パキスタン、イスラエルの核兵器とその論理 【対面】橘場
第9回	核不拡散体制の現状と課題 【対面】橘場
第10回	日本の核政策 【対面】鈴木
第11回	世界の非核兵器地帯 【対面】中村
第12回	北朝鮮の核問題 【対面】中村
第13回	「核兵器のない世界」に向けた取り組み 【対面】中村
第14回	「核兵器のない世界」に向けた取り組み 【対面】中村
第15回	まとめ：核兵器廃絶に向けて「私たちにできること」 【対面】中村

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586021301	科目番号／Course code	05860213
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 13721_005		
授業科目名／Course title	●A11国際社会と平和／Peace and International Society		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	河合 公明		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	河合 公明		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	河合 公明		
科目分類／Course Category	ブラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育G棟38／RoomG-38		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kawai▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください）		
担当教員研究室/Office	核兵器廃絶研究センター 2階 研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2204		
担当教員オフィスアワー/Office hours	アポイントメントによる。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	この授業では、国際社会の基本的な特徴とその分析方法の基礎を学び、核抑止論と核廃絶論の双方について考えを深め、国際社会の平和について、自分なりに筋道を立てて議論する力を養うことを目指します。		
授業到達目標/Course goals	受講生の到達目標は、 ①国際社会を分析するための基礎的な社会科学の知識と方法を身につける、 ②国際社会の特徴を理解する、③核兵器の問題をめぐり自分なりに議論を展開する力を身につける、 の三点です。授業で行うグループディスカッションで、他の学生に対し説得的な議論を提示することを期待しています。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業の出席点および平常点（授業で行うグループディスカッションの発表と授業の最後に提出するリフレクションペーパーなどを評価）が全体の50%、期末のレポートが残りの50%です。 授業への出席が2/3に満たないと失格になります。 レポートの採点では、1）設問に対して明確に答えているか、2）自分の意見がきちんと事実や根拠に基づいているか、3）意見が論理的に展開されているか、の三点を基準に採点します。		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学習としては、歴史的な出来事、現実の事件や問題に触れるので、授業で紹介した参考文献等を参照するほか、ニュースの国際報道や分析記事に接するようにしてください（2h）。 事後学習としては、授業で扱った理論や用語について紹介した参考文献等で復習してください（2h）。		
キーワード/Keywords	国際社会、国際政治、国際法、平和、安全保障、核兵器、NGO		
教科書・教材・参考書/Materials	授業ではレジュメを使用し、参考文献を紹介します。		
受講要件（履修条件）/Prerequisites	全回出席が原則です。出席が2/3に満たないと失格になります。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は原則としてすべて対面で行います。
学生へのメッセージ/Message for students	国際社会に関する基礎的な知識と分析方法を学んだうえで、現状を分析的に捉え、その課題は何かを考え、自分なりに平和に貢献する方法を模索する一人ひとりに成長されることを期待しています。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	河合 公明 / 専門は国際人道法。核不拡散条約（NPT）や核兵器禁止条約（TPNW）の会議に非政府組織（NGO）の一員として参加し、核兵器廃絶日本NGO連絡会で事務局を務めた実務経験に基づき、本授業科目に必要な基本的知識を講義により教授する。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	国際社会とは何か：この授業で何を学ぶか 【対面】
第2回	国際社会の一員としての自分：グローバル国際社会における課題 【対面】
第3回	国際社会への社会科学的アプローチ：国際政治学とは何か 【対面】
第4回	国際社会の形成：主権国家からなるシステム 【対面】
第5回	国際社会と紛争：紛争の平和的解決 【対面】
第6回	国際社会と軍縮：軍縮とは何か 【対面】
第7回	平和のための国際法：戦争の違法化 【対面】
第8回	平和と安全保障：安全保障とは何か 【対面】
第9回	戦争の被害を軽減する努力：国際人道法 【対面】
第10回	「正しい戦争」はあるのか：戦争が違法化された時代の問題 【対面】
第11回	核兵器の不拡散：核兵器不拡散条約 【対面】
第12回	核兵器の禁止：核兵器禁止条約 【対面】
第13回	国家の枠を超えて：NGOの役割 【対面】
第14回	平和のためにできること：学んだ知識をどう生かすか 【対面】
第15回	国際社会と核兵器：まとめ 【対面】
第16回	レポート提出 【講義はありません】

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592007101	科目番号／Course code	05920071
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A12社会問題を考える／Workshops on Social Problems		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	岡田 佳子／Okada Yoshiko		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	岡田 佳子／Okada Yoshiko		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	岡田 佳子／Okada Yoshiko		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟24／RoomA-24		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	okadayo▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	教育学部512		
担当教員TEL/Tel	095-819-2091		
担当教員オフィスアワー/Office hours	何か質問や相談したいことがあったら遠慮なく来てください。 但し、LACS経由ではなく、必ずメールにて面談の予約をしてください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	私達はこの世に生まれてから死ぬまで、必ず誰かとの人間関係の中で生きています。本科目では、この対人関係の中にみられる諸問題について客観的・分析的に考え、その後自分達で何かしらの解決策を探索していくことを目指します。 そのために本科目ではまず、様々な人間関係の中にある諸問題について、教育学・社会学の観点から客観的・分析的に考えるための視点を養います。次に、それらの視点に基づき、今後実際の諸問題にどのように対応していくのかについてグループワークやディスカッションの中で自分達なりの答えを考え出していくことを目指します。 本科目は大学や社会でのコミュニケーションに必要とされる思考力・分析力・コミュニケーション力など、様々な基礎能力を育成することを目指しています。そのため、この科目では皆さんの積極的な参加が不可欠です。授業内では他者とのコミュニケーションや自分の意見を持つことが強く求められます。この科目ではグループワークや課題の配点を高くしています。そのため、受動的に授業を受けたい人には非常に不向きな授業であるため、その点に留意して受講してください。		
授業到達目標/Course goals	・人間関係が人に及ぼす影響について社会学の用語を用いて説明することができる ・自分が経験してきた人間関係の影響について、客観的に分析できる ・他者との考え方・価値観の違いが生まれる背景や要因について推察することができる ・人間関係に関する諸問題について自分の考えを述べるることができる ・他者の多様な価値観について受容的に関わるることができる		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives ☐C. 技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills ☒D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐F. 教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	ワーク、授業リフレクション、課題の総計を100点満点に換算し、60点以上を合格とします。 但し、（１）全体の2／3以上の出席及び、（２）ワークと課題、授業リフレクションをそれぞれ全体の2／3以上提出していることを「成績評価の最低条件」とします。（この条件を満たしていない学生は自動的に単位が取得できないことになります。また、これらは合格の最低条件ではありません。採点結果によっては不合格になる可能性も十分にありますのでくれぐれも注意してください） 本科目では、最終試験は実施しません。その代わり、授業回数が16回ありますので注意してください。
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【事前】指定された資料もしくは動画を見る（2h） 【事後】授業内容の要約と考察（授業リフレクション）（2h） 授業回によってはジグソー授業を実施します。 欠席すると他のグループメンバーの学びに影響が出ます。 体調管理に努めて欠席が無いよう心掛けてください。
キーワード/Keywords	社会化、スクールカースト、教育格差、文化的再生産、ジェンダー
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は指定しません。参考資料等は授業の中で随時配付します。
受講要件（履修条件）/Prerequisites	・授業内外の課題やグループワークに積極的に取り組むこと。 ・授業進行やグループワークの妨げとなるので特段の理由がない限りは遅刻厳禁です。遅刻した際、グループワークの妨げになる時点での入室を断る場合があります。（その時間の出席は認めません）授業開始時には必ず着席しておくよう、くれぐれも注意してください。 ・授業中の私語および携帯電話の使用は禁止します。使用を発見した段階で退室してもらう場合があります。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	・この授業では座席指定を行います。座席の指示は授業開始時に行うため、遅刻しないこと。 ・授業内でグループワークを頻繁に行うため、特別の理由がない限りは遅刻厳禁とします。それに留意したうえで受講すること。
学生へのメッセージ/Message for students	この科目では自分の経験や社会的な問題について客観的に捉え直す視点を培い、考える力をつけていくことをねらいとしています。人間関係や社会的な問題について一緒にじっくり考えていきましょう。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	オリエンテーション・学校の人間関係を考える（１）【対面】
第2回	学校の人間関係を考える（２）【対面】
第3回	学校の人間関係を考える（３）【対面】
第4回	学校の人間関係を考える（４）【対面】
第5回	教育格差を考える（１）【対面】
第6回	教育格差を考える（２）【対面】
第7回	教育格差を考える（３）【対面】
第8回	教育格差を考える（４）【対面】
第9回	ジェンダーについて考える（１）【対面】
第10回	ジェンダーについて考える（２）【対面】
第11回	ジェンダーについて考える（３）【対面】
第12回	ジェンダーについて考える（４）【対面】
第13回	人の多様性について考える（１）【対面】
第14回	人の多様性について考える（２）【対面】
第15回	人の多様性について考える（３）【対面】

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592007301	科目番号／Course code	05920073
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A12他者理解の心理学／Psychology of Understanding Others		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	當山 明華／Toyama Sayaka		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	當山 明華／Toyama Sayaka		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	當山 明華／Toyama Sayaka		
科目分類／Course Category	ブラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟24／RoomA-24		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	s-toyama▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください）		
担当教員研究室/Office	教育開発推進機構アドミッションセンター		
担当教員TEL/Tel	819-2115		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールにて予約		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本科目は「他者や社会と関わる」のモジュール科目として、大学や社会でのコミュニケーションに必要とされる基礎能力の育成を目指します。 他者や社会を理解する科目ですが、これらを理解するためにはまず自分を知ることが大切です。そのために、最初に自己の感情や思考についての理解を深め、その後他者や社会について理解を深めていきます。 この科目では、最初に理論を学び、その後理論を用いたワーク、グループ・ディスカッション等を行います。自己と他者の基礎的知識を理解し実践によって定着することで、皆さんの社会生活が豊かになることを目指します。		
授業到達目標/Course goals	(1)自己および他者についての基礎的な知識を得ることができる (2)自分の気持ちや考えを整理することができる (3)自分の気持ちや考えを他者に表現することができる (4)自分の考えと異なる他者の考えを理解できる (5)思わぬ事態が起こった際に客観的に考えようとするすることができる (6)社会や環境への意識を高めることができる		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☐ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	成績評価は、課題（70％）およびリフレクションペーパー（30％）の評価で行います。リフレクションペーパーは出席も兼ねています。 また、下記の条件を全て満たした方のみを評価対象とします。 ・出席は8回以上 ・最終課題以外の課題提出は5回以上 ・最終課題の提出（課題については、期限外の提出は認めません）		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		

事前、事後学修の内容/Preparation & Review	各回とも、テーマに沿ったワークを行っています。学修を深めるために復習を行い（1h）、それを元にしたレポートの提出を求めます（3h）。
キーワード/Keywords	意思決定、社会的ジレンマ、論理的思考、ディスカッション
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は指定しません。参考資料等は授業のなかで随時配布・提示します。
受講要件（履修条件）/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	全回出席が可能なこと。集中して授業や課題に取り組むこと。自分の言動に責任を持てることを求めます。 教員からの指示がない限り、授業中のPCおよびスマートフォンの使用は不可とします。 対面で実施予定。
学生へのメッセージ/Message for students	この科目では、理論の理解を元に自己および他者との関わりを実践的に行います。そのため、授業外での学修や課題、調査の比重が大きいです。受講を希望する人はその点に留意して参加して下さい。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	イントロダクション【対面】
第2回	自分自身を知る【対面】
第3回	自己とは何か（1）【対面】
第4回	自己とは何か（2）【対面】
第5回	自己と他者（1）ステレオタイプ、対人認知【対面】
第6回	自己と他者（2）【対面】
第7回	自己と他者（3）【対面】
第8回	自己と他者（4）【対面】
第9回	自己と社会（1）集団規範、社会的ジレンマ【対面】
第10回	自己と社会（2）【対面】
第11回	自己と社会（3）【対面】
第12回	自己と社会（4）【対面】
第13回	自己と環境（1）【対面】
第14回	自己と環境（2）【対面】
第15回	まとめと振り返り【対面】

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 火／Tue 1
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250586027101	科目番号／Course code	05860271
科目ナンバリングコード／Numbering code	GEMA 15051_005		
授業科目名／Course title	●A13国際環境法／International Environmental Agreements		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	竹下 哲史／Takeshita Satoshi, 山下 敬彦／Yamashita Takahiko, 久保 隆／Kubo Takashi		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	竹下 哲史／Takeshita Satoshi		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	竹下 哲史／Takeshita Satoshi, 山下 敬彦／Yamashita Takahiko, 久保 隆／Kubo Takashi		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟14／RoomA-14		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	juniper▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	研究開発推進機構 2F		
担当教員TEL/Tel	095-819-2227		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールで問い合わせ		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	環境問題に対する考え方, 環境法(国際法)の歴史と特質を理解させるとともに, 環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神を理解させ, 人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。合せて, 自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上等を目指す。		
授業到達目標/Course goals	環境問題に対する考え方, 環境法(国際法)の歴史と特質を理解させる。国際環境法の理念・精神を理解させる。 それにより例えば, 地球環境における喫緊の課題である気候変動や生物多様性の減少に関する最新の情報を理解し, そのことについて自身の考えを述べるができるようになる。 長崎大学のディプロマ・ポリシーの1,4,6に対応する。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	確認試験30%, 主体的学習・レポート70%で評価し, 60%以上を合格とします。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前に関係する資料に目を通しておく(平均2時間)。 講義終了後にはレポート作成の準備を行う(平均2時間)。		
キーワード/Keywords	環境マネジメント, 国際環境法		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は使用しない。教材はPDFファイルで提供する。参考書は適宜紹介する。		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	特にありません。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	全ての回を対面で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	興味を持って参加してもらうことを期待しています。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	ガイダンス（対面）：担当 竹下哲史 科目の概要，狙い，位置づけ，到達目標，授業の方法，各単元の到達目標，評価方法等を理解する。
第2回	環境問題をどのように考えるか（対面）：担当 竹下哲史 環境問題とは？環境をどのように考えるか？（環境に対する基本的な考え方，環境倫理）等について考え，それらを簡潔にまとめる。
第3回	国際環境法の歴史と特質（対面）：担当 山下敬彦 二国間における紛争の平和的解決の条約から「部門別アプローチ」の国際環境法を経て，国際共同体全体の利益を管理する取組みへと移行した歴史と，現代の国際環境法の特質等を理解し，簡潔にまとめる。
第4回	国際連合人間環境会議と人間環境宣言（対面）：担当 久保隆 二国間における紛争の平和的解決のための条約から「部門別アプローチ」のタイプの国際環境法への転機となった国際連合人間環境会議における「人間環境宣言」の主旨を理解し，簡潔にまとめる。
第5回	第一世代の国際環境法（対面）：担当 竹下哲史 第一世代の代表的な国際環境法であるラムサール条約，ユネスコ世界遺産条約及びワシントン条約の主旨を理解し，簡潔にまとめる。
第6回	第二世代の国際環境法（その1）（対面）：担当 久保隆 第二世代の代表的な国際環境法のうち，ウィーン条約とそれに附属するモントリオール議定書の主旨を理解し，簡潔にまとめる。
第7回	第二世代の国際環境法（その2）（対面）：担当 竹下哲史 第二世代の代表的な国際環境法のうち，バーゼル条約の主旨を理解し，簡潔にまとめる。
第8回	第二世代の国際環境法（その3）（対面）：担当 山下敬彦 第二世代の代表的な国際環境法のうち，気候変動枠組条約及びその第3回締約国会議で作成された京都議定書の主旨を理解し，簡潔にまとめる。
第9回	第二世代の国際環境法（その4）（対面）：担当 久保隆 第二世代の代表的な国際環境法のうち，生物多様性条約及びそれに附属するカルタヘナ議定書の主旨を理解し，簡潔にまとめる。
第10回	第二世代の国際環境法（その5）（対面）：担当 山下敬彦 第二世代の代表的な国際環境法のうち，ロッテルダム条約及びストックホルム条約，水銀条約の主旨を理解し，簡潔にまとめる。
第11回	ソフト・ロー（その1）（対面）：担当 竹下哲史 ソフト・ロー的な法的拘束力のない文書の役割とそれらの文書のうち，世界自然憲章，森林原則宣言及び環境と開発に関するリオ宣言の主旨を理解し，簡潔にまとめる。
第12回	ソフト・ロー（その2）（対面）：担当 山下敬彦 ソフト・ロー的な法的拘束力のない文書のうち，アジェンダ21及び持続可能な開発に関するヨハネスブルク宣言の主旨を理解し，簡潔にまとめる。
第13回	非政府組織の参加と国際環境法の課題（対面）：担当 久保隆 現代の国際環境法の特質の一つである私的アクター，すなわちNGO（非政府組織）の存在とその組織及び活動について理解を深める。また，気候変動枠組条約と途上国，国際環境法間の連携，環境と貿易などの国際環境法の課題を理解し，簡潔にまとめる。
第14回	演習（対面）：担当 山下敬彦
第15回	確認テスト・レポートのまとめ（対面）：担当 山下敬彦 確認テストによる知識の定着の確認を行う。また，環境法（国際法）と環境問題への取組みのまとめを完成させる。ポイント：もれなく，だぶりなく，分かりやすく簡潔に自分の言葉でまとめる。

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 火／Tue 1
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592001901	科目番号／Course code	05920019
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A13国内環境法／Domestic Environmental Laws		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	竹下 哲史／Takeshita Satoshi, 山下 敬彦／Yamashita Takahiko, 久保 隆／Kubo Takashi		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	竹下 哲史／Takeshita Satoshi		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	竹下 哲史／Takeshita Satoshi, 山下 敬彦／Yamashita Takahiko, 久保 隆／Kubo Takashi		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育A棟14／RoomA-14		
対象学生(クラス等)／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	juniper▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	研究開発推進機構 2F		
担当教員TEL/Tel	095-819-2227		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールで問い合わせ		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史, 国際環境法との関係を理解させる。「環境基本法」及び国内の主な環境関連法の主旨を理解させるとともに, 環境コミュニケーションの重要性を理解させ, 人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。併せて, 自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上及び社会貢献意欲の醸成等を目指す。		
授業到達目標/Course goals	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史, 国際環境法との関係を理解する。「環境基本法」及び国内の主な環境関連法の主旨を理解する。環境保全や環境コミュニケーションの重要性を理解する。それにより, 持続可能な社会を構築する必要性や環境に配慮した日常生活の重要性について, 自身の考えを述べるができるようになる。長崎大学のディプロマ・ポリシーの1,4,6に対応する。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☐ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	主体的学習20%, レポート80%で評価し, 60%以上を合格とする。		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	環境問題に関するニュースや新聞記事に目を通しておくこと(2h)。授業後は, 授業で提示した資料を基に復習を行い, 授業内容をまとめることで知識の定着を行う(2h)。		
キーワード/Keywords	日本の環境問題, 環境対策の考え方, 国際環境法との関係, 環境基本法, 環境基本計画, 環境関連法, 環境配慮, 環境コミュニケーション, 日本のエネルギー事情		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は使用しない。教材はPDFファイルで提供する。参考書は適宜紹介する。		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	特にありません。		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	全ての回を対面で実施します。
学生へのメッセージ/Message for students	日本の将来を担う皆さんにとって、環境問題は避けて通ることができません。積極的に取り組んでくれることを期待しています。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	【日本の環境と環境政策】（対面）：担当 久保隆 日本における環境問題とそれらへの対策の考え方や歴史，さらに国際環境法との関係等を理解する。
第2回	【環境基本法】（対面）：担当 竹下哲史 日本における環境に関する基本的法律である環境基本法の概要，目的，基本理念及び各主体の責務を中心に理解する。
第3回	【環境基本計画】（対面）：担当 竹下哲史 日本における環境政策の基本である環境基本計画の概要を中心に理解する。
第4回	【第五次・六次環境基本計画】（対面）：担当 竹下哲史 直近の累次計画である第五次及び2024年度から始まった第六次環境基本計画の主旨を理解する。
第5回	【循環型社会の形成】（対面）：担当 竹下哲史 環境基本法の下位法である循環型社会形成推進基本法及び循環型社会形成推進基本計画の概要，目的等を理解する。
第6回	【生物多様性の確保】（対面）：担当 久保隆 環境基本法の下位法である生物多様性基本法の概要，目的，基本原則等を理解する。
第7回	【日本のエネルギー事情】（対面）：担当 山下敬彦 日本のエネルギー事情について学ぶ。
第8回	【エネルギー政策】（対面）：担当 山下敬彦 エネルギー政策の大きな方向性を示すエネルギー政策基本法について，その基本方針と各主体の役割分担等について理解する。
第9回	【エネルギー使用の合理化】（対面）：担当 山下敬彦 省エネ法（エネルギー使用の合理化に関する法律）の主旨を理解する。
第10回	【オゾン層の保護に関する法律】（対面）：担当 久保隆 オゾン層保護法（特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律）の主旨を理解する。
第11回	【地球温暖化対策】（対面）：担当 山下敬彦 温対法（地球温暖化対策の推進に関する法律）の主旨を理解する。
第12回	【廃棄物の処理】（対面）：担当 竹下哲史 廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）の主旨を理解する。
第13回	【環境物品等】（対面）：担当 久保隆 グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進に関する法律）の主旨を理解する。
第14回	【化学物質の管理】（対面）：担当 久保隆 PRTR，化管法（特定化学物質の排出量の把握等及び管理の促進に関する法律）の主旨と，化学物質等安全性データシートの概要を理解する。
第15回	【環境への配慮と環境報告書，まとめ】（対面）：担当 竹下哲史 環境配慮促進法（環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律）の主旨を理解する。さらに，長崎大学環境報告書等を例に，環境コミュニケーションの重要性について理解を深める。

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 月／Mon 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250544000301	科目番号／Course code	05440003
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A14グローバル化社会への備え／Preparing for a Globalized Society		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	清田 智子／KIYOTA Tomoko, 近藤 祐市／Kondo Yuichi		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	清田 智子／KIYOTA Tomoko		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	清田 智子／KIYOTA Tomoko, 近藤 祐市／Kondo Yuichi		
科目分類／Course Category	ブラネタリーヘルスⅠ科目, 全学モジュールⅠ科目, 教養モジュールⅠ		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟16／RoomC-16		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	tomokokiyota▲nagasaki-u.ac.jp(メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	文教キャンパス教養教育B棟2階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2454		
担当教員オフィスアワー/Office hours	質問、相談はいつでも歓迎します。事前にメールでアポを取ってください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本講義では、グローバル化した社会を生き抜く上で必要な知識や情報収集の方法を学ぶ。外国人と一緒に働く際に知っておいた方がよいマナー、海外で働く際の注意事項、国際的に働く際のCV（職務経歴書）の書き方や仕事への応募の方法やビザの問題等、様々な視点から実践的にグローバル化社会に備える。		
授業到達目標/Course goals	ーこの世界がどれくらいグローバル化されているのか知る。（①③⑩） ーグローバル化社会で生き抜く上で必要な知識を得ることができ、自分でも情報収集ができるようになる。（①②③⑤⑦⑩） ーグローバル化社会で自分がどのように生きていくか考えられるようになる。（①②③⑨⑩）		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☒ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席（50%）、課題（50%）で、60点以上を合格とする。 本講義では15年後になっていたい自分のCVを想像で作成してもらい、グループで面接を実施する。		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	講義で学んだことを基に、講義後に自分の将来を考えながら情報収集や課題作成を行うこと。（4h）		
キーワード/Keywords	グローバル化、国際化、国際情勢、英語、留学、国際キャリア、外国人		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は使用しない。		
受講要件（履修条件）/Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	上記授業内容はゲストスピーカーの予定などを踏まえ変更になる場合があります。
学生へのメッセージ/Message for students	私は中学生時代に洋画やMTVにはまり海外に関心を持つようになりました。それ以来海外で働きたい熱が続き、これまでに1か月以上住んだ国は加豪露米印泰の6カ国、全て合わせると8年近く海外で生活してきました。その中で私が経験したことや失敗したことなどを踏まえつつ、皆さんが海外に出る前に知っておいた方が良いことなどを紹介していきます。海外に少しでも関心がある方は大歓迎です。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	本講義を担当する清田は、2017年から2年間、外務省アジア大洋州局地域政策参事官室で外務事務官としてASEANを担当し、2019年から2年間、在タイ日本国大使館で書記官として日タイ関係や日ASEAN関係の促進に関与した。また、在インド日本国大使館では2年間、専門調査員としてインド内政を担当した。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	イントロダクション： グローバル化社会とは何か。世界はどの程度グローバル化しているのか。 ※対面
第2回	英語・第二外国語学習のすすめ：英語の資格はどれくらい役に立つのか、海外で働く際の語学力の目安、効果的な英語学習の方法等。 ※対面
第3回	海外旅行のすすめ：旅行計画の立て方、海外旅行保険の重要性、パスポート、ビザの取得方法等 ※対面
第4回	留学のすすめ：いつ留学するのが良いのか、留学方法、留学費用の目安や奨学金の探し方、ワーホリ制度の活用等 ※対面
第5回	国際キャリアのすすめ①：海外で働く方法、仕事の種類、国際キャリアのメリット・デメリット等 ※対面
第6回	国際キャリアのすすめ②：事例紹介 ※対面
第7回	国際キャリアのすすめ③：事例紹介 ※対面
第8回	国際キャリアのすすめ④：国際キャリア構築のノウハウ、CVの作成方法、国際機関の空席ポストの調べ方（実践編） ※対面
第9回	日本で暮らす外国人の実情 ※対面
第10回	外国人と働く、暮らす際のマナー：宗教、食事、文化、差別、バイアス等 ※対面
第11回	海外でのトラブルへの備え：病気、事故、犯罪、麻薬、飲酒等 ※対面
第12回	大使館の役割 ※対面
第13回	最低限知っておくべき国際情勢①：外務省海外安全HPを読み解く ※対面
第14回	最低限知っておくべき国際情勢②：情報収集の方法 ※対面
第15回	面接試験 ※対面
第16回	面接試験 ※対面

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4ク ォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592004301	科目番号／Course code	05920043
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A14国際協力と開発援助／International Cooperation and Development Assistance		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	遠山 峰司／Takashi Toyama		
授業担当教員名（科目責任者） ／Instructor in charge of the course	遠山 峰司／Takashi Toyama		
授業担当教員名（オムニバス科目等） ／Instructor(s)	遠山 峰司／Takashi Toyama		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟16／RoomC-16		
対象学生（クラス等） /Intended year (class)			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	toyama.takashi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	坂本キャンパス 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス総合研究棟5階507号室 Room 507, 5th floor, Global Health Research Building, Graduate School of Tropical Medicine and Global Health, Sakamoto Campus		
担当教員TEL/Tel	095-819-7895 (直通) 095-819-7895 (Direct)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜から金曜まで 10時から17時まで 面談予約や質問はtoyama.takashi@nagasaki-u.ac.jp宛とし、件名に学部名と氏名を入れて下さい。 10:00 a.m. to 5:00 p.m. Monday through Friday Please make an appointment or send questions to toyama.takashi@nagasaki-u.ac.jp with the name of the department and your name in the subject line.		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	今日、感染症の脅威、貧困、紛争と人道危機、経済不況、環境汚染は国境を越え、世界には一つの組織、一つ分野、一つの国では対処困難な課題が山積しています。課題解決に向けて他者や他国と協力して取り組むことが求められるこの世界で、より厳しい立場に置かれている開発途上国とその人々―世界の人口80億人の8割を占めています―の暮らしについて考えることは今日の我々にとって極めて重要です。では、開発途上国はどのような課題を抱えているのでしょうか。その原因は何に求められるのでしょうか。国際社会は開発途上国に対して、どのような協力を行っているのでしょうか。そして、そのような協力はどのような動機に基づくものなのでしょうか。 本科目は国際協力における開発援助の概念、歴史、仕組み、実例に関する基礎的知識を身につけ、開発途上国に対する国際協力についての「自分の考え」を説明出来るようになることを目指します。 Today, the threat of infectious diseases such as the new coronavirus, poverty, conflict and humanitarian crises, economic recession, and environmental pollution transcend national borders, and the world is riddled with challenges that are difficult for one organization, one sector, or one country to solve. In a world where we must work together with others and other countries to solve problems, we must consider the lives of the developing countries and their people, who are in a more difficult position - 80% of the world's population of 8 billion people. What are the challenges facing developing countries? What are the causes? What is the international community doing to help developing countries, and how? And what are the motivations for such cooperation? This course aims to provide students with a basic knowledge of the concept, history, mechanism, and examples of development assistance in international cooperation, and to enable them to explain "your ideas" about international cooperation with developing		

授業到達目標/Course goals	国際協力における開発援助の概念、歴史、仕組み、実例に関する基礎的知識を身につけ、開発途上国に対する国際協力についての「自分の考え」を説明できるようになる。 This course aims to provide students with a basic knowledge of the concept, history, mechanism, and examples of development assistance in international cooperation, and to enable them to explain "your ideas" about international cooperation with developing
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐汎用的能力/Generic Competence ☐倫理観/Ethics ☒多様性の理解/Understanding Diversity ☒主体性/Autonomy ☐協働性/Cooperativeness ☐考えをやり取りする力/Ability to exchange ideas ☒国際・地域社会への関心/Interest in international / local society
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☐A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒B.多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives ☐C.技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills ☐D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐F.教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	課題 100点 総合点(100点) 60点以上を合格とします。 Assignment: 100 points Total score (100 points): 60 points or more is considered passing.
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前：シラバスや講義資料を見て次の授業の流れを把握する。分からない用語や疑問点を調べる。質問等を用意する。（2h） 事後：講義内容及び講義資料、参考文献等をもとに復習する。疑問点あれば調べ、要すれば教員に確認する。課題がある場合は、取り組み、指定された授業で提出する。開発援助についての自身の考えを順次検討、まとめていく。（2h） Prior to the lesson: Review the syllabus and lecture materials to understand the flow of the next class. Look up unfamiliar terms and questions. Prepare questions, etc. (2h) After the lesson: Review the lecture content, lecture materials, and references. If there are any questions, check them with the instructor. If there are assignments, work on them and submit them in the assigned class. Students will review and summarize their own ideas on development assistance. (2h)
キーワード/Keywords	SDGs、国際協力、開発援助、政府開発援助（ODA）、国連、世界銀行、WHO、UNICEF、JICA、貧困、難民、ジェンダー、教育、保健医療、経済、環境、アジア、アフリカ、中東、欧州、中南米、国際政治、ナショナリズム、多様性、ボランティア、民間連携 SDGs, international cooperation, development assistance, Official Development Assistance (ODA), United Nations, World Bank, WHO, UNICEF, JICA, poverty, refugees, gender, education, health, economy, environment, Asia, Africa, Middle East, Europe, Latin America, international politics, nationalism, diversity, volunteer, private partnership
教科書・教材・参考書/Materials	教科書はありません。授業を通じて参考書籍等をご紹介します。 【全般的な参考資料】 開発協力白書 日本の国際協力 外務省ウェブサイトからダウンロード可能 国際協力機構年報 国際協力機構（JICA）ウェブサイトからダウンロード可能 No textbook. Reference books will be introduced in class. General Reference Materials: - White Paper on Development Cooperation Japan's International Cooperation Downloadable from the website of the Ministry of Foreign Affairs of Japan - Annual Report of Japan International Cooperation Agency Downloadable from the JICA website

受講要件（履修条件）/Prerequisites	授業中に発言すること。本科目の授業では受講生に意見や質問を求めます。授業中に意見を述べたり、質問することは自身の考えを磨く、疑問を解決する、他者の考えに耳を傾ける、他の受講生と共に学ぶ貴重な機会です。 Speaking up in class. In this course, students are encouraged to express their opinions and ask questions. Expressing opinions and asking questions in class is a valuable opportunity to refine your own ideas, resolve questions, listen to the ideas of others, and learn together with other students.
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp In order to ensure equal educational opportunities for all students, Nagasaki University strives to remove societal barriers that may interfere with academic activities, and to provide reasonable accommodations as necessary and appropriate. If you have any questions or concerns regarding reasonable accommodations or other support in this class, please feel free to talk to the instructor (contact information above), or contact the Student Accessibility Office. Student Accessibility Office contact information (TEL)095-819-2006 (FAX)095-819-2948 (E-
備考/Remarks	1. 授業の特徴：担当教員の実務経験を活かした理論と実務（実際）に基づく講義です。写真や動画、国際協力の実例の紹介やゲストスピーカーを迎え、生きた授業を行います。 2. 授業の形態：担当教員及びゲストスピーカーによる講義です。対面を基本とし、必要に応じてオンライン（多くても数回程度を想定）を切り替えます。 3. 授業の流れ：冒頭に前回授業の復習、学習の目標の提示、続いて講義（質疑含む）、最後に要点や授業の位置づけの再確認、次回の予告をします。LACSには講義資料を掲示します。 4. 意見や質問：意見や質問を歓迎します。 5. 授業の進行：受講人数、進行具合、ゲストスピーカーの都合により、授業内容の順を変更する可能性があります。 6. 課題：剽窃、不正が認められた場合は該当箇所の評価をゼロとします。 1. Characteristics of the class: The lectures are based on theory and practice (actual practice) utilizing the practical experience of the instructor in charge. The classes are taught in real-life situations through photos, videos, and examples of international cooperation, as well as by guest speakers. 2. Class format: Lectures are given by the instructor and guest speakers. To be delivered face to face, switching to online (assuming a few times at most) if necessary. 3. Class flow: The class begins with a review of the previous class and presentation of learning objectives, followed by the lecture (including Q&A), and ends with a recap of the main points and positioning of the class, as well as a notice for the next class. 4. Comments and questions: Comments and questions are welcome. 5. Class progression: The order of class content is subject to change depending on the number of students, progress, and availability of guest speakers. 6. Assignments: Any plagiarism or malpractice will result in a zero grade.
学生へのメッセージ/Message for students	シラバスの内容に少しでも面白そうだとしたら、ぜひ受講してみてください。皆さんの受講を歓迎します。 Please take the course if you find any part of the syllabus that sounds interesting to you. I welcome your attendance.
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y

実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	遠山 峰司 約30年にわたり独立行政法人国際協力機構(JICA)の職員として海外と国内双方の様々な開発協力事業（技術協力、有償資金協力、無償資金協力、市民参加協力等）に従事。これまでの海外駐在先はフィジー（2000年から2004年）とパプアニューギニア（2016年から2020年）で、地域的には大洋州が専門地域といえる（出張先は全世界約40か国）。国内と海外での実務経験の紹介を交えながら本授業を担当する。 For about 30 years he has been engaged in development cooperation practice as a staff of the Japan International Cooperation Agency (JICA), the implementing agency of the Japanese Official Development Assistance (ODA). He has been in charge of project formulation and management etc. mainly in the field of fisheries and agriculture and been specifically familiar with JICA operation in the Pacific. He has experiences of having worked for JICA Fiji office (2000-2004) and JICA Papua New Guinea office (2016-2020) and he visited about 40 countries all over the world. / He will conduct this class with his
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回(1校時) /1	授業の紹介【対面】 開発途上国の課題【対面】 Introduction to the course 【In person】 What are the characteristics of development issues? 【In person】
第2回(2校時) /2	開発途上国の課題【対面】 What are the characteristics of development issues? 【In person】
第3回(1校時) /3	国際協力と開発援助の基本用語【対面】 What is poverty, development, and developing country? 【In person】
第4回(2校時) /4	国際協力と開発援助の基本用語【対面】 開発援助のアクター【対面】 What is poverty, development, and developing country? 【In person】 What are aid actors? 【In person】
第5回(1校時) /5	日本の政府開発援助の仕組みと実例【対面】 What are the policy, administrative, and operational frameworks of Japan's official development assistance? 【In person】
第6回(2校時) /6	日本の政府開発援助の仕組みと実例【対面】 What are the policy, administrative, and operational frameworks of Japan's official development assistance? 【In person】
第7回(1校時) /7	開発援助の歴史【対面】 What is the history of international development? 【In person】
第8回(2校時) /8	開発援助の歴史【対面】 What is the history of international development? 【In person】
第9回(1校時) /9	援助する理由【対面】 Why giving aid? 【In person】
第10回(2校時) /10	国際協力に参加する【対面】 How can I participate in development cooperation? 【In person】
第11回(1校時) /11	ゲストスピーカー【対面】 Guest speaker 【In person】
第12回(2校時) /12	ゲストスピーカー【対面】 Guest speaker 【In person】
第13回(1校時) /13	ゲストスピーカー【対面】 Guest speaker 【In person】
第14回(2校時) /14	ゲストスピーカー【対面】 Guest speaker 【In person】
第15回(1校時) /15	開発援助の今後、総括【対面】 Future of development assistance and summary 【In person】

学期／Semester	2025年度／Academic Year 4クォーター／Fourth Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/11/27～2026/03/31		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250592004301	科目番号／Course code	05920043
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A14国際協力と開発援助／International Cooperation and Development Assistance		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	遠山 峰司／Takashi Toyama		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	遠山 峰司／Takashi Toyama		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	遠山 峰司／Takashi Toyama		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟16／RoomC-16		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	toyama.takashi▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する▲を@に変更して送信してください）		
担当教員研究室/Office	坂本キャンパス 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス総合研究棟5階507号室		
担当教員TEL/Tel	095-819-7895（直通）		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜から金曜まで 10時から17時まで 面談予約や質問はtoyama.takashi▲nagasaki-u.ac.jp宛とし、件名に学部名と氏名を入れて下さい。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	今日、感染症の脅威、貧困、紛争と人道危機、経済不況、環境汚染は国境を越え、世界には一つの組織、一つ分野、一つの国では対処困難な課題が山積しています。課題解決に向けて他者や他国と協力して取り組むことが求められるこの世界で、より厳しい立場に置かれている開発途上国とその人々―世界の人口80億人の8割を占めています―の暮らしについて考えることは今日の我々にとって極めて重要です。では、開発途上国はどのような課題を抱えているのでしょうか。その原因は何に求められるのでしょうか。国際社会は開発途上国に対して何に、どのように協力をしているのでしょうか。そして、そのような協力はどのような動機に基づくものなのでしょうか。 本科目は国際協力における開発援助の概念、歴史、仕組み、実例に関する基礎的知識を身につけ、開発途上国に対する国際協力についての「自分の考え」を説明出来るようになることを目指します。		
授業到達目標/Course goals	国際協力における開発援助の概念、歴史、仕組み、実例に関する基礎的知識を身につけ、開発途上国に対する国際協力についての「自分の考え」を説明出来るようになる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☒ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☐ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☐ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	課題 100点 総合点(100点) 60点以上を合格とします。		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前：シラバスや講義資料を見て次の授業の流れを把握する。分からない用語や疑問点を調べる。質問等を用意する。（2h） 事後：講義内容及び講義資料、参考文献等をもとに復習する。疑問点あれば調べ、要すれば教員に確認する。課題がある場合は、取り組み、指定された授業で提出する。開発援助についての自身の考えを順次検討、まとめていく。（2h）		

キーワード/Keywords	SDGs、国際協力、開発援助、政府開発援助（ODA）、国連、世界銀行、WHO、UNICEF、JICA、貧困、難民、ジェンダー、教育、保健医療、経済、環境、アジア、アフリカ、中東、欧州、中南米、国際政治、ナショナリズム、多様性、ボランティア、民間連携
教科書・教材・参考書/Materials	教科書はありません。授業を通じて参考書籍等を紹介しします。 【一般的な参考資料】 開発協力白書 日本の国際協力 外務省ウェブサイトからダウンロード可能 国際協力機構年報 国際協力機構（JICA）ウェブサイトからダウンロード可能
受講要件（履修条件）/Prerequisites	授業中に発言すること。本科目の授業では受講生に意見や質問を求めます。授業中に意見を述べたり、質問することは自身の考えを磨く、疑問を解決する、他者の考えに耳を傾ける、他の受講生が共に学ぶ貴重な機会です。
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006 （FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	1. 授業の特徴：担当教員の実務経験を活かした理論と実務（実際）に基づく講義です。写真や動画、国際協力の事例の紹介やゲストスピーカーを迎え、生きた授業を行います。 2. 授業の形態：担当教員及びゲストスピーカーによる講義です。対面を基本とし、必要に応じてオンライン（多くても数回程度を想定）を切り替えます。 3. 授業の流れ：冒頭に前回授業の復習、学習の目標の提示、続いて講義（質疑含む）、最後に要点や授業の位置づけの再確認、次回の予告をします。LACSには講義資料を掲示します。 4. 意見や質問：意見や質問を歓迎します。 5. 授業の進行：受講人数、進行具合、ゲストスピーカーの都合により、授業内容の順を変更する可能性があります。 6. 課題：剽窃、不正が認められた場合は該当箇所の評価をゼロとします。
学生へのメッセージ/Message for students	シラバスの内容に少しでも面白そうだなというところがあったら、ぜひ受講してみてください。皆さんの受講を歓迎します。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	遠山 峰司 約30年にわたり独立行政法人国際協力機構(JICA)の職員として海外と国内双方の様々な開発協力事業（技術協力、有償資金協力、無償資金協力、市民参加協力等）に従事。これまでの海外駐在先はフィジー（2000年から2004年）とパプアニューギニア（2016年から2020年）で、地域的には大洋州が専門地域といえる（出張先は全世界約40か国）。国内と海外での実務経験の紹介を交えながら本授業を担当する。
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
第1回	授業の紹介【対面】 開発途上国の課題【対面】
第2回	開発途上国の課題【対面】
第3回	国際協力と開発援助の基本用語【対面】
第4回	国際協力と開発援助の基本用語【対面】 開発援助のアクター【対面】
第5回	日本の政府開発援助の仕組みと実例【対面】
第6回	日本の政府開発援助の仕組みと実例【対面】
第7回	開発援助の歴史【対面】
第8回	開発援助の歴史【対面】
第9回	援助する理由【対面】
第10回	国際協力に参加する【対面】
第11回	ゲストスピーカー【対面】
第12回	ゲストスピーカー【対面】
第13回	ゲストスピーカー【対面】
第14回	ゲストスピーカー【対面】
第15回	開発援助の今後、総括【対面】

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 月／Mon 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250544000501	科目番号／Course code	05440005
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A15感染症で学ぶグローバル化と私たち／Infectious Diseases and Globalization: How They Shape Our Lives		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	森保 妙子／Taeko Moriyasu		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	森保 妙子／Taeko Moriyasu		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	森保 妙子／Taeko Moriyasu		
科目分類／Course Category	ブラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟16／RoomC-16		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	All grades		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	taeko_moriyasu@naasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	Faculty of Education 1st Floor Open Lab (4)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2960		
担当教員オフィスアワー/Office hours	Mondays 13:00-17:00		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	In this class, students will learn how infectious diseases interact with various social, economic, and environmental factors on a global scale. Throughout human history, urbanization, economic activity, war, and climate change have had a significant impact on the outbreak, spread, and control of infectious diseases. 特に、現代においては、グローバル化やデジタル化が進む一方で、新たな感染症やパンデミックの脅威も増しています。本授業では、歴史的事例（天然痘、ペスト、スペイン風邪、HIV/AIDSなど）を分析しながら、感染症をブラネタリーヘルス（Planetary Health）の視点から総合的に理解します。 また、グループディスカッションを通じて、感染症と社会の関係について批判的に考察し、実際の課題解決につながるアイデアを模索します。最終的には、感染症対策のあり方を、経済、都市計画、国際協力、環境保護などの幅広い観点から議論し、持続可能な未来のためのアプローチを考えるための導入とします。		
授業到達目標/Course goals	1. Understand the historical background of infectious diseases and be able to explain the relationship between social development and infectious diseases. 2. Students will be able to explain in their own words how urbanization, economic activities, war, climate change, and globalization affect the occurrence and spread of infectious diseases. 3. Be able to use COVID-19 as a case study to critically examine the challenges and possibilities of contemporary infectious disease control. 4. Students will develop a collaborative problem-solving attitude through data		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☒ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席60%、グループディスカッションへの積極的参加20%、レポート20%		

各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	As prior study, read the books listed in the reference book for two hours each week. Please complete at least one book. As post-study, work on assignments for 2 hours each week. Instructions for assignments will be given in class.
キーワード/Keywords	Infectious Diseases, Public Health, History, Society
教科書・教材・参考書/Materials	【参考図書】 - 飯島 渉 (2024) 『感染症でまなぶ日本と世界の歴史』 清水書院 - 飯島 渉 (2024) 『感染症の歴史学』 岩波書店 - 児玉 聡 (2022) 『COVID-19の倫理学ーパンデミック以後の公衆衛生』 ナカニシヤ出版 - 忽那賢志 (2021) 『専門医が教える 新型コロナ・感染症の本当の話』 幻冬舎 - 石 弘之 (2018) 『感染症の世界史』 KADOKAWA - 山本 太郎 (2011) 『感染症と文明ー共生への道』 岩波書店 - 村上 陽一郎 (1983) 『ペスト大流行：ヨーロッパ中世の崩壊』 岩波書店
受講要件（履修条件）/Prerequisites	None
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	Nagasaki University is committed to removing social barriers and providing reasonable accommodation to ensure that all students have equal access to education. Please consult with your instructor (see contact information above) or the "Assist Plaza" (Support Office for Students with Disabilities) for support such as reasonable accommodations in
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	It is important to understand that infectious diseases are not just a medical or public health problem, but a complex social issue closely related to social, economic, and environmental factors. Through this class, participants should be able to consider how to take measures against infectious diseases from multiple perspectives, and to construct and communicate their opinions logically from their respective standpoints.
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
2025/09/29 (8:50-10:20)	1. Introduction
2025/09/29 (10:30-12:00)	2. Urbanization and Infectious Diseases 1) Settlement and Collective Life: Smallpox - Historical Background of Urbanization - The origin and eradication of smallpox
2025/10/06 (8:50-10:20)	3. Urbanization and Infectious Diseases 2) Rapid Urbanization and the Establishment of Industrial Cities: Tuberculosis - Industrial Revolution and Tuberculosis Epidemic in the 19th Century - Tuberculosis Control in Urban Areas in the 20th Century - Megacities in developing countries and the resurgence of tuberculosis
2025/10/06 (10:30-12:00)	4. group discussion - Consider the challenges common to cities during the Industrial Revolution and slums in developing countries today. - Are there aspects of urbanization that are advantageous for combating infectious diseases?
2025/10/20(8:50-10:20)	5. Economy and Infectious Diseases 1) Development of trade networks in the Middle Ages: plague and cholera - Plague epidemic and urban crowding - Cholera epidemic and establishment of public health
2025/10/20 (10:30-12:00)	6. Economy and Infectious Diseases 2) Modern to Contemporary Development: Sexually Transmitted Diseases and HIV/AIDS - Global human mobility and the spread of sexually transmitted diseases
2025/10/27 (8:50-10:20)	7. war and infectious diseases - World War I and the Spanish Flu - The Syrian Civil War and the Polio Epidemic - Plague and the Hundred Years War - Ebola and the African Civil War

2025/10/27 (10:30-12:00)	8. Group Discussion - Consider how the movement of people and goods and the development of transportation affect infectious diseases, both positive and negative aspects. - Does digitalization increase or decrease sexually transmitted diseases? - Are there aspects of war that promote medical advances? Let's examine the case studies and consider the pros and cons.
2025/11/04 (8:50-10:20)	9. climate change and infectious diseases: malaria, dengue fever, Ebola - Spread of infectious diseases due to climate change - Thawing permafrost and emergence of unknown viruses - Increase in infectious diseases due to natural disasters - Deforestation and new viruses
2025/11/04 (10:30-12:00)	10.COVID-19 ①: Urbanization and Globalization, Globalization and Nationalism, Information and Infodemics - COVID-19 and urbanization/globalization
2025/11/10 (10:30-12:00)	11.COVID-19 ②: Urbanization and Globalization, Globalization and Nationalism, Information and Infodemics - Nationalism during infectious disease epidemics - Discrimination and prejudice
2025/11/10 (10:30-12:00)	12.COVID-19 ③: urbanization and globalization, globalization and nationalism, information and infodemics - Pandemics and Fake News, Information Hiding - Social networking and the expansion of nationalism
2025/11/17 (8:50-10:20)	13. group discussion - Consider both the impact of climate change on infectious diseases and the impact of infectious disease countermeasures on climate change. - Research the actual COVID-19 measures taken by Japan, the UK, China, and the US and create a timeline. - Compare the advantages and disadvantages of restricting travel and trade, and consider whether you would or would not implement restrictions, and if so, when. - Should personal freedoms be restricted to fight infectious diseases?
2025/11/17 (10:30-12:00)	14. group discussion (continued)
2025/12/01 (8:50-10:20)	15. Summary: Planetary Health and Infectious Diseases - Considering Infectious Diseases from a Global Perspective

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	月／Mon 1, 月／Mon 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250544000501	科目番号／Course code	05440005
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A15感染症で学ぶグローバル化と私たち／Infectious Diseases and Globalization: How They Shape Our Lives		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	森保 妙子／Taeko Moriyasu		
授業担当教員名(科目責任者)／Instructor in charge of the course	森保 妙子／Taeko Moriyasu		
授業担当教員名(オムニバス科目等)／Instructor(s)	森保 妙子／Taeko Moriyasu		
科目分類／Course Category	ブラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟16／RoomC-16		
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	taeko_moriyasu▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	教育学部本館1階オープンラボ(4)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2960		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜13時から17時		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本授業では、感染症が地球規模のさまざまな社会・経済・環境要因とどのように相互作用しているのかを学びます。人類の歴史の中で、都市化、経済活動、戦争、気候変動などが感染症の発生・拡大・制圧に大きな影響を与えてきました。 特に、現代においては、グローバル化やデジタル化が進む一方で、新たな感染症やパンデミックの脅威も増しています。本授業では、歴史的事例(天然痘、ペスト、スペイン風邪、HIV/AIDSなど)を分析しながら、感染症をプラネタリーヘルス(Planetary Health)の視点から総合的に理解します。 また、グループディスカッションを通じて、感染症と社会の関係について批判的に考察し、実際の課題解決につながるアイデアを模索します。最終的には、感染症対策のあり方を、経済、都市計画、国際協力、環境保護などの幅広い観点から議論し、持続可能な未来のためのアプローチを考えるための導入とします。		
授業到達目標/Course goals	1. 感染症の歴史的背景を理解し、社会の発展と感染症の関係を説明できるようになる。 2. 都市化、経済活動、戦争、気候変動、グローバル化が感染症の発生と拡大にどのような影響を及ぼすかを自分の言葉で説明できるようになる。 3. COVID-19をケーススタディとして、現代の感染症対策の課題と可能性を批判的に考察できるようになる。 4. データ収集、分析、ディスカッション、発表を通じて、協力しながら問題解決に取り組む姿勢を身に付ける。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
/ Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒B.多角的に考えるために他者と関わる活動
/ Activities involving others to think from various perspectives ☐C.技能修得のために実践する活動
/ Activities to practice for acquiring skills ☒D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動
/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐F.教員からの講義のみで構成される
/ It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	出席60%、グループディスカッションへの積極的参加20%、レポート20%		
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前学修として、毎週2時間は参考図書に挙げる本を読む。最低1冊は読み終わってください。 事後学修として、毎週2時間課題に取り組む。課題の指示は授業中に行う。		

キーワード/Keywords	感染症、公衆衛生、歴史、社会
教科書・教材・参考書/Materials	【参考図書】 - 飯島 渉 (2024) 『感染症でまなぶ日本と世界の歴史』 清水書院 - 飯島 渉 (2024) 『感染症の歴史学』 岩波書店 - 児玉 聡 (2022) 『COVID-19の倫理学—パンデミック以後の公衆衛生』 ナカニシヤ出版 - 忽那賢志 (2021) 『専門医が教える 新型コロナ・感染症の本当の話』 幻冬舎 - 石 弘之 (2018) 『感染症の世界史』 KADOKAWA - 山本 太郎 (2011) 『感染症と文明—共生への道』 岩波書店 - 村上 陽一郎 (1983) 『ペスト大流行：ヨーロッパ中世の崩壊』 岩波書店
受講要件（履修条件）/Prerequisites	特になし
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	感染症は単なる医療・公衆衛生の問題にとどまらず、社会的・経済的・環境的要因と密接に関連する複合的な社会課題であることを理解することが重要です。本授業を通じて、受講者が多角的な視点から感染症対策のあり方を考察し、それぞれの立場から論理的に意見を構築・発信できるようになることを目指しましょう。
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容／Contents
2025/09/29 (8:50-10:20)	【対面】 1. イントロダクション
2025/09/29 (10:30-12:00)	【対面】 2. 都市化と感染症 ①定住と集団生活：天然痘 - 都市化の歴史的経緯 - 天然痘のおこりと根絶
2025/10/06 (8:50-10:20)	【対面】 3. 都市化と感染症 ② 急速な都市化と工業都市の成立：結核 - 19世紀の産業革命と結核の流行 - 20世紀の都市部における結核対策 - 途上国のメガシティと結核の再興
2025/10/06 (10:30-12:00)	【対面】 4. グループディスカッション - 産業革命時の都市と、現在の発展途上国のスラムに共通する課題を考えよう。 - 都市化が感染症対策に有利な局面はあるだろうか？ - 都会のネズミと田舎のネズミ、健康なくらしができるのはどちら？
2025/10/20(8:50-10:20)	【対面】 5. 経済と感染症 ① 中世の交易ネットワークの発展：ペスト、コレラ - ペスト流行と都市の密集 - コレラの流行と公衆衛生の成立
2025/10/20 (10:30-12:00)	【対面】 6. 経済と感染症 ② 近代から現代における発展：性感染症とHIV/AIDS - グローバルな人の移動と性感染症の拡大
2025/10/27 (8:50-10:20)	【対面】 7. 戦争と感染症 - 第1次世界大戦とスペイン風邪 - シリア内戦とポリオの再流行 - ペストと百年戦争 - エボラ出血熱とアフリカの内線

2025/10/27 (10:30-12:00)	【対面】 8. グループディスカッション - 人やモノの移動、交通手段の発達がどのように感染症に影響するか、良い面と悪い面の両方を考えてみよう。 - デジタル化は性感染症を増加させるのか、減少させるのか。 - 戦争が医療の進歩を促す側面があるのか？事例を調べて、その是非を考えよう
2025/11/04 (8:50-10:20)	【対面】 9. 気候変動と感染症：マラリア、デング熱、エボラ出血熱 - 気候変動による感染症の拡大 - 永久凍土の融解と未知のウイルスの出現 - 自然災害による感染症の増加 - 森林破壊と新型ウイルス
2025/11/04 (10:30-12:00)	【対面】 10. COVID-19 ①：都市化とグローバル化、グローバル化とナショナリズム、情報とインフォデミック - COVID-19と都市化／グローバル化
2025/11/10 (10:30-12:00)	【対面】 11. COVID-19 ②：都市化とグローバル化、グローバル化とナショナリズム、情報とインフォデミック - 感染症流行時のナショナリズム - 差別と偏見
2025/11/10 (10:30-12:00)	【対面】 12. COVID-19 ③：都市化とグローバル化、グローバル化とナショナリズム、情報とインフォデミック - パンデミックとフェイクニュース、情報隠蔽 - SNSとナショナリズムの拡大
2025/11/17 (8:50-10:20)	【対面】 13. グループディスカッション - 気候変動が感染症に与える影響と感染症対策が気候変動に与える影響を両方考えてみよう。 - 日本、イギリス、中国、アメリカが実際に行ったCOVID-19の対策を調べ、年表を作ろう。 - 旅行や貿易を制限することのメリット・デメリットを比較し、あなたなら制限を実施するかしないか、するならばどのタイミングで実施するか考えよう。 - 感染症対策のために個人の自由を制限すべきか？
2025/11/17 (10:30-12:00)	【対面】 14. グループディスカッション（つづき）
2025/12/01 (8:50-10:20)	【対面】 15. まとめ：プラネタリーヘルスと感染症 - 感染症を地球規模の視点で考察する

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250544000701	科目番号／Course code	05440007
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A15健康経済と国際社会／Health Economics and the Global Community		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	GAI RUOYAN		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	GAI RUOYAN		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	GAI RUOYAN		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟16／RoomC-16		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)			
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	gai-ruoyan@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	Global Education and Student Support Building 2F		
担当教員TEL/Tel	095-800-4108		
担当教員オフィスアワー/Office hours	Monday, the 2nd Period		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	This lecture, "Health Economics and Global Society," aims to provide undergraduate students with an understanding of the concepts and roles of social security systems and Universal Health Coverage (UHC) from a global perspective. It focuses on the impact of a nexus of factors on social security systems, utilizing reports from international organizations and the latest data to analyze the realities of healthcare access and health disparities. Additionally, through case studies and group discussions using visual materials such as YouTube videos, students will develop critical thinking and problem-solving skills to understand real-world policy challenges. This lecture serves as a platform for students to learn the fundamentals of health policy and health economics in an international context while engaging in discussions on the sustainability of social		
授業到達目標/Course goals	The objective of this lecture is to develop an understanding of the fundamental concepts of social security systems and Universal Health Coverage (UHC) and to enable students to analyze global health disparities and challenges related to healthcare financing. Specifically, students will learn about the impact of various factors, including climate change and air pollution, on the sustainability of healthcare systems and social security, while utilizing data from international organizations to assess the current state of healthcare access and health disparities. Additionally, through discussions based on YouTube videos and international reports, students will cultivate critical thinking and problem-solving skills, as well as gain a deeper understanding of global		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☐ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☒ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B. 多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C. 技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F. 教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	In-class discussions (50%), Report assignments (50%)		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		

事前、事後学修の内容/Preparation & Review	Pre-learning: Research materials on the themes of each session in advance using newspapers and books. (2h) Post-learning: Review the lecture content and materials. (2h)
キーワード/Keywords	Universal Health Coverage (UHC), Healthcare and Social Security Systems, Healthcare Access, Health Disparities
教科書・教材・参考書/Materials	The executive summary reports from international organizations, databases, and YouTube videos will be provided during class.
受講要件（履修条件）/Prerequisites	Since this course utilizes a couple of English materials such as official reports and YouTube videos, students are expected to have the willingness to study in English.
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
September 30 2025	Basic concepts and an overview related to the lecture (on-site)
September 30 2025	Basic concepts and an overview related to the lecture (on-site)
October 7 2025	Health disparities in the world and their social determinants (on-site)
October 7 2025	Health disparities in the world and their social determinants (on-site)
October 14 2025	Healthcare and social security systems, Universal Health Coverage (UHC), and comparison of healthcare systems across countries (on-site)
October 14 2025	Healthcare and social security systems, Universal Health Coverage (UHC), and comparison of healthcare systems across countries (on-site)
October 21 2025	Challenges in the sustainability of healthcare and social security systems and Group Discussion (on-site)
October 21 2025	Challenges in the sustainability of healthcare and social security systems and Group Discussion (on-site)
October 28 2025	The impact of climate change on health and health financing, critique of economic growth models, and Group Discussion (on-site)
October 28 2025	The impact of climate change on health and health financing, critique of economic growth models, and Group Discussion (on-site)
November 11 2025	Resilience of healthcare systems for pandemic and infectious disease response and Group Discussion (on-site)
November 11 2025	Resilience of healthcare systems for pandemic and infectious disease response and Group Discussion (on-site)
November 18 2025	The future of healthcare utilizing AI, telemedicine, and big data and Group Discussion
November 18 2025	The future of healthcare utilizing AI, telemedicine, and big data and Group Discussion
November 25 2025	Summary

学期／Semester	2025年度／Academic Year 3クォーター／Third Quarter	曜日・校時／Day・Period	火／Tue 1, 火／Tue 2
開講期間／Course duration	2025/09/29～2025/11/26		
必修選択／Required / Elective	選択／elective	単位数(一般/編入/留学)／Credits (General /Transfer/Overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード／Time schedule code	20250544000701	科目番号／Course code	05440007
科目ナンバリングコード／Numbering code			
授業科目名／Course title	●A15健康経済と国際社会／Health Economics and the Global Community		
編集担当教員／Instructor in charge of the course syllabus	GAI RUOYAN		
授業担当教員名（科目責任者）／Instructor in charge of the course	GAI RUOYAN		
授業担当教員名（オムニバス科目等）／Instructor(s)	GAI RUOYAN		
科目分類／Course Category	プラネタリーヘルス I 科目, 全学モジュール I 科目, 教養モジュール I		
対象年次／Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態／Course style	講義／Lecture
教室／Class room	教養教育C棟16／RoomC-16		
対象学生（クラス等）／Intended year (class)	多文化社会学部、教育学部、経済学部、薬学部、水産学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	gai-ruoyan▲nagasaki-u.ac.jp（メールを送信する▲を@に変更して送信してください）		
担当教員研究室/Office	グローバル教育・学生支援棟2階（国際企画課内）		
担当教員TEL/Tel	095-800-4108		
担当教員オフィスアワー/Office hours	月曜日第2時限		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	本講義「健康経済と国際社会」では、社会保障制度とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の概念と役割をグローバル社会の視点から理解し、健康経済の観点からその課題と持続可能性を学部生に理解してもらう。気候変動・大気汚染・水不足などの環境変化が社会保障制度に及ぼす影響に焦点を当て、国際機関の報告書や最新のデータを活用しながら、医療アクセスや健康格差の実態を分析すること、また、YouTube動画などの視覚教材を用いたケーススタディやグループディスカッションを通じて、実際の政策課題に対する批判的思考力や問題解決能力を養うことを目的とする。本講義は、国際社会における健康政策や医療経済の基礎を学びながら、持続可能な社会保障制度のあり方について議論する場を提供する。		
授業到達目標/Course goals	本講義の到達目標は、社会保障制度とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の基本概念を理解し、グローバルな健康格差や医療財源の課題を分析できるようになることである。具体的には、気候変動・大気汚染などの環境要因を含む諸要素が医療制度や社会保障の持続可能性の影響を学び、国際機関のデータを活用して医療アクセスの現状を考察する能力を養う。さらに、YouTube動画や国際報告書を基にディスカッションを行い、批判的思考力と問題解決能力を身につけるとともに、グローバルな健康課題を理解できるように目指す。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで）/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	☐ 汎用的能力／Generic Competence ☐ 倫理観／Ethics ☒ 多様性の理解／Understanding Diversity ☐ 主体性／Autonomy ☐ 協働性／Cooperativeness ☒ 考えをやり取りする力／Ability to exchange ideas ☒ 国際・地域社会への関心／Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	☒ A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ☒ B.多角的に考えるために他者と関わる活動 / Activities involving others to think from various perspectives ☐ C.技能修得のために実践する活動 / Activities to practice for acquiring skills ☐ D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems ☐ E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above ☐ F.教員からの講義のみで構成される / It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	授業内討論（50％）、レポート課題（50％）		
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	事前：各回のテーマに関する情報を新聞や書籍であらかじめ調べること（2h） 事後：講義内容及び講義資料を基に復習すること（2h）		
キーワード/Keywords	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）、医療・社会保障制度、医療アクセス、健康格差		
教科書・教材・参考書/Materials	国際機関の報告書要約版、データベース、Youtube動画などを授業中に指示		
受講要件（履修条件）/Prerequisites	英文の報告書やYouTube動画を用いるため、英文で勉強する意欲があることが望ましい		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細／Course Schedule	
回(日時)／Time(date and time)	授業内容／Contents
2025年9月30日	「健康経済と国際社会」講義に関わる基本的な概念と概説（対面）
2025年9月30日	「健康経済と国際社会」講義に関わる基本的な概念と概説（対面）
2025年10月7日	グローバルな健康格差とその社会的決定要因（対面）
2025年10月7日	グローバルな健康格差とその社会的決定要因（対面）
2025年10月14日	医療・社会保障制度、ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）、保健医療体制の国際比較（対面）
2025年10月14日	医療・社会保障制度、ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）、保健医療体制の国際比較（対面）
2025年10月21日	医療・社会保障の持続可能性の課題とグループディスカッション（対面）
2025年10月21日	医療・社会保障の持続可能性の課題とグループディスカッション（対面）
2025年10月28日	環境変化と健康経済：気候変動が健康と保健財政に与える影響、経済成長モデルの批判とグループディスカッション（対面）
2025年10月28日	環境変化と健康経済：気候変動が健康と保健財政に与える影響、経済成長モデルの批判とグループディスカッション（対面）
2025年11月11日	パンデミック、感染症対応のための保健医療体制の強靱性の課題とグループディスカッション（対面）
2025年11月11日	パンデミック、感染症対応のための保健医療体制の強靱性の課題とグループディスカッション（対面）
2025年11月18日	AI・遠隔医療・ビッグデータを活用した保健医療の未来とグループディスカッション（対面）
2025年11月18日	AI・遠隔医療・ビッグデータを活用した保健医療の未来とグループディスカッション（対面）
2025年11月25日	まとめ